

2025年3月期 Q3決算説明資料

決算発表・決算説明会：2025年1月31日

日本ライフライン株式会社

東証プライム市場：7575

Unauthorized copying prohibited.
Copyright © 2025 Japan Lifeline Co., Ltd. All rights reserved.



...for patient comfort.

01. 2025年3月期 Q3決算報告

02. 通期業績予想および配当予想の修正について

03. 質疑応答

Appendix 1 決算補足資料

Appendix 2 インベスターズガイド(サマリー版)

決算発表ごとにファクトシートを開示しております。(Excel/PDF)
当社ホームページ (<https://www.jll.co.jp/investors/>) からダウンロードできます。

01. 2025年3月期 Q3決算報告

02. 通期業績予想および配当予想の修正について

03. 質疑応答

Appendix 1 決算補足資料

Appendix 2 インベスターズガイド(サマリー版)

決算発表ごとにファクトシートを開示しております。(Excel/PDF)
当社ホームページ (<https://www.jll.co.jp/investors/>) からダウンロードできます。

	2025/3期 Q3累計
売上高	過去最高 42,811 百万円 (前年同期比 +11.8%)
営業利益	過去最高 9,906 百万円 (前年同期比 + 17.2%)
当期純利益	過去最高 7,071 百万円 (前年同期比 + 14.5%)

決算ハイライト

増収増益

(売上高・営業利益・純利益は9か月累計ベースで過去最高)

外部要因

- (+) AF症例数は前年同期比約10%増
- (-) 公定価格の改定 (24/6~)

内部要因

- (+) コア製品群*¹は好調に推移
- (+) 新領域は前年同期比71%増
- (-) 販管費の増(一過性のコスト増を含む)

通期業績予想と配当予想を上方修正。詳細はP16

*1 競争力が高く特に注力する4つの製品 ⇒ ①心腔内除細動カテーテル「BeeAT」、②大腿静脈用止血デバイス、③S-ICD、④Frozen Elephant Trunk (フローズンエレファントトランク) (従来呼称の「オープンステントグラフト」から変更)

2025/3期 Q3累計 連結PL

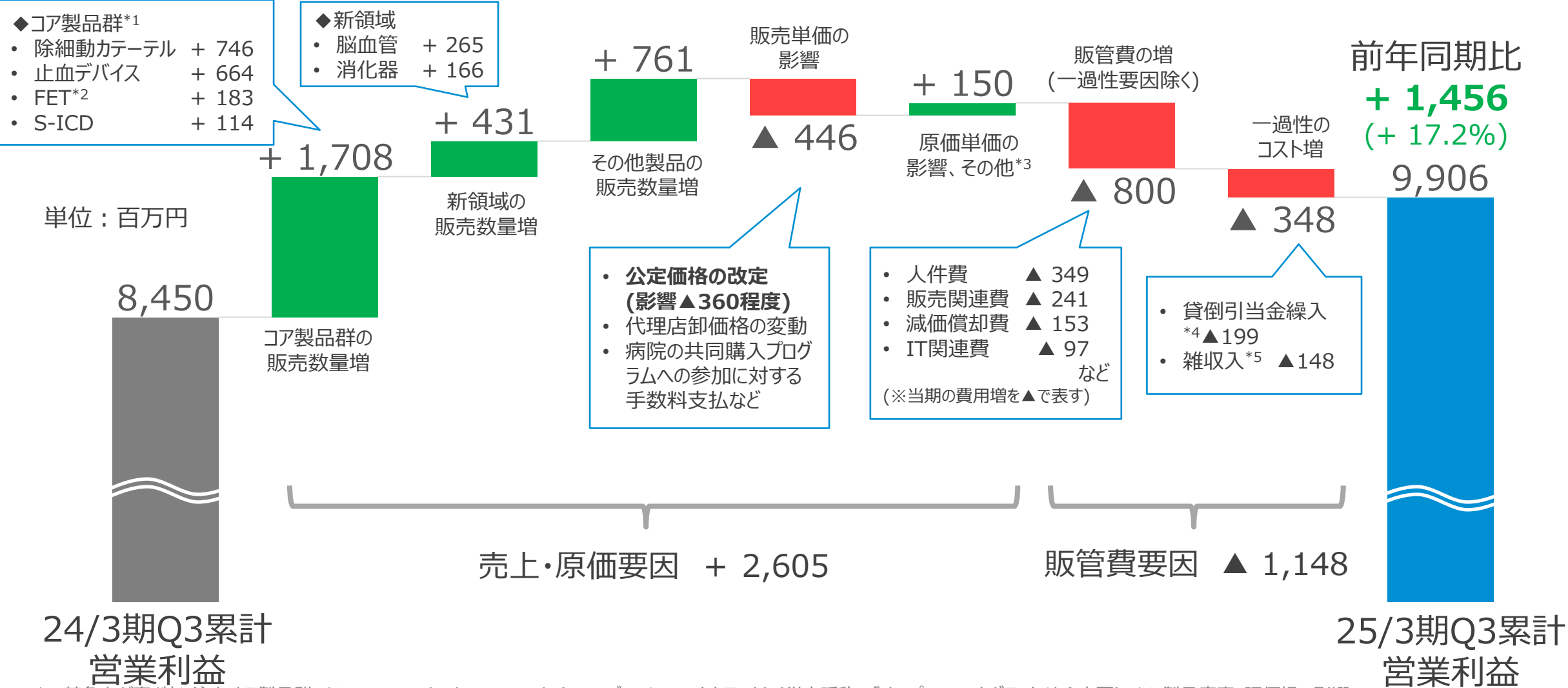
✓ Q3も引き続き好調。売上高および各利益は9か月累計ベースで過去最高

単位：百万円	2024/3期 Q3累計	2025/3期 Q3累計	前年 同期比	前年 同期比%	コメント
売上高	38,302	過去最高 42,811	+ 4,508	+ 11.8	(+) 症例増による販売増 (+) 新領域の拡大
売上総利益	23,305	過去最高 25,910	+ 2,605	+ 11.2	(-) 公定価格の下落 (+) 低採算事業の終了 (+) 自社製品の原価低減
%	60.8%	60.5%		▲ 0.3pp	
販管費	14,854	16,003	+ 1,148	+ 7.7	次ページで詳細説明
営業利益	8,450	過去最高 9,906	+ 1,456	+ 17.2	次ページで詳細説明
%	22.1%	23.1%		+ 1.0pp	
当期純利益	6,173	過去最高 7,071	+ 897	+ 14.5	(+) 税額控除の適用 ⇒税負担率28.8%
%	16.1%	16.5%		+ 0.4pp	
自社製品比率	59.0%	57.6%		▲ 1.4pp	脳血管・止血デバイス等の仕入品の拡大*1
海外売上高比率	1.5%	2.0%		+ 0.5pp	
1株当たり利益	80.70円	99.37円	+ 18.67円	+ 23.1	(+) 発行済株式数*2の減少

*1 仕入商品の売上高は前年同期比15.3%増加 (自社製品は同8.9%増加) *2 期中平均・自己株式を除くベース

2025/3期 Q3累計 営業利益の増減分析

✓ コア製品群が好調、販管費の増加を吸収して二桁増益を達成(一過性要因を除いた場合、21.4%増益)



*1 競争力が高く特に注力する製品群 *2 Frozen Elephant Trunk (フローズンエレファントランク) (従来呼称の「オープンス Tent グラフト」から変更) *3 製品廃棄・評価損の影響等を含む *4 債権回収に伴う貸倒引当金戻入39百万円を含む。表示金額はネットの金額 *5 Baylis社製品の販売契約終了に伴う在庫移管に関連する雑収入等を前期に計上

既存領域（心臓）【構成比95%】*1

リズムデバイス

26%

- 不整脈を治療する体内植込み型機器など



【コア製品】
S-ICD

安定事業

EP/アブレーション

47%

- 不整脈手術で使われる医療用管など



【コア製品】
心腔内除細動
カテーテル



【コア製品】
止血デバイス

中核事業

心血管関連

22%

- 大動脈の外科手術で使われる人工臓器など



【コア製品】
フローズンエレファントトランク

旧呼称：オープンステントグラフト

新領域 【構成比5%】

脳血管関連

3%

- 脳血管の詰まりを解消する管など



血栓吸引カテーテル



塞栓用コイル

成長事業

消化器

2%

- 消化器の詰まりを解消するステントなど



胆管チューブステント

*1 構成比は24/3期実績

- ✓ 医療機器が手術で使用されるたびに売上が発生する
- ✓ 手術件数が増えるほど、売上が増加する

売上高

=

数量

×

単価

手術件数
(症例数)

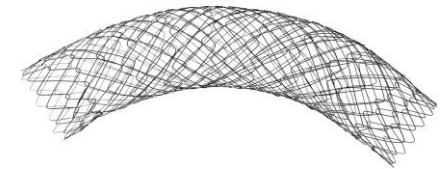
×

当社シェア

公定価格
(保険償還価格)

×

掛率
(代理店卸値)

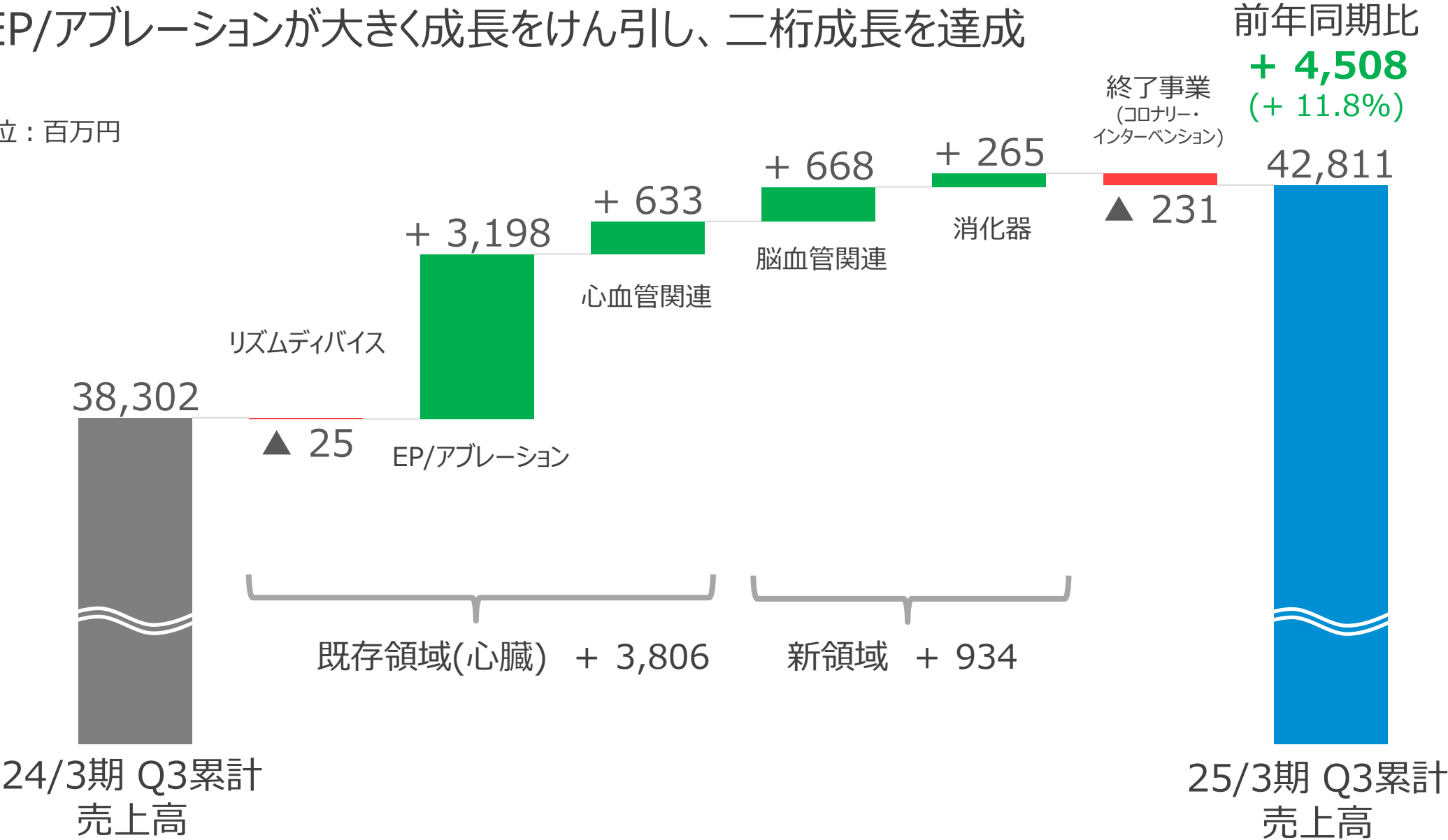


取り扱い製品のほとんどが、手術で使用される使い切りの医療機器

2025/3期 Q3累計 売上高 増減分析

✓ EP/アブレーションが大きく成長をけん引し、二桁成長を達成

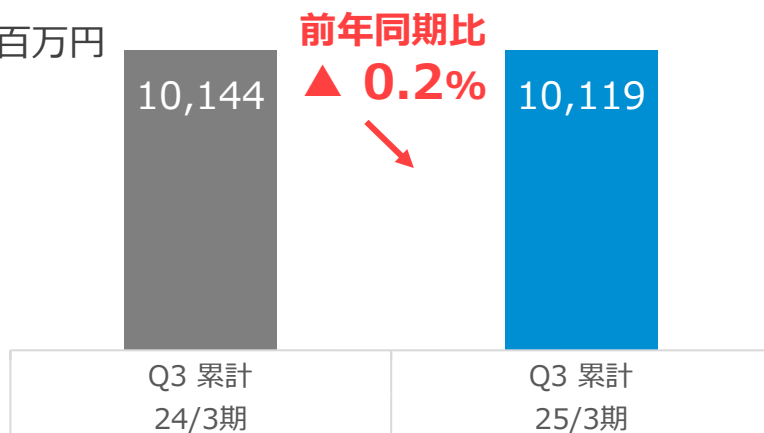
単位：百万円



S-ICDでペースメーカーの苦戦をカバーし、ほぼ前期並み

リズムデバイス 売上高

単位：百万円



市況認識

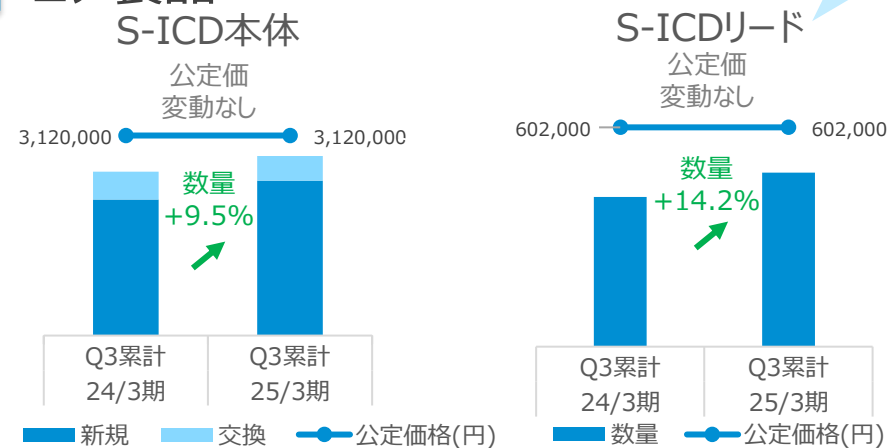
※Q3末時点。前回からの追記・変更を下線で示す

- 他社のリードレスペースメーカーの市場浸透が進む
(新規市場の約30%)
- ペースメーカー・ICD市場は緩やかに拡大
- 公定価格の下落 (24/6～)
 - ペースメーカー▲13%、T-ICD▲5%

販売ハイライト

- コア製品のS-ICD 10.2%増収
 - 継続的に採用施設数を伸ばし、新規症例を獲得
 - 新規ICD植込み症例 推定自社シェア約40% (Q3)
- ペースメーカー関連 8.4%減収
 - 他社リードレス製品の影響を受ける
 - 公定価格の下落

コア製品



リードは新規症例のパロメータ

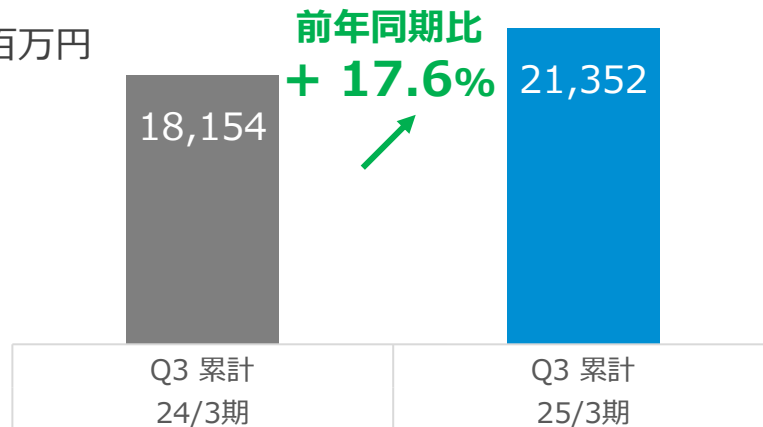
- 新規症例：本体とリードがセットで売上
- 交換症例：本体のみ売上



2つのコア製品がけん引し、二桁成長

EP/アブレーション 売上高

単位：百万円



販売ハイライト

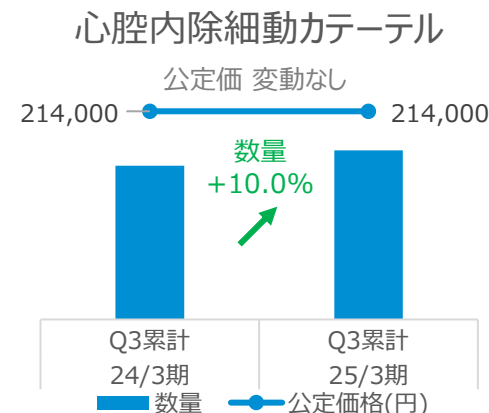
- コア製品の心腔内除細動カテーテル 10.1%増収
 - 推定自社シェア95%(Q3末)、ほぼ想定内
 - 新しい治療法(PFA)でも除細動カテーテルは継続採用
- コア製品の止血デバイス QoQ 26.7%増収
 - 症例数が多い重要施設には、ほぼ導入完了
- 食道温モニタリングカテーテル 9.8%増収
 - PFAの普及が加速したQ3は成長が急減速、1.5%増収にとどまる

市況認識

※Q3末時点。前回からの追記・変更を下線で示す

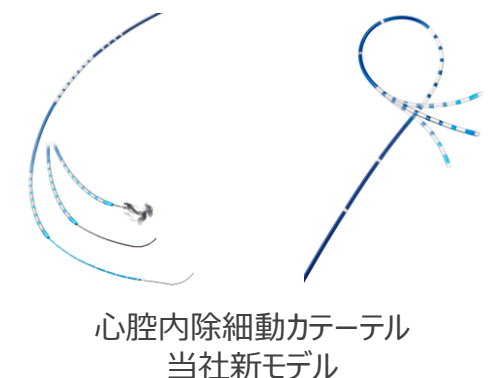
- 心房細動(AF)症例数が増加
 - 前年同期比 +10%程度*1 (期初想定：通期で+8%)
- 国内へのPFA*2の導入が加速
 - 競合外資3社が販売
 - 足元でAF症例の約25%はPFAによる治療と推測
- 国内2社が除細動カテーテルに新規参入
- 公定価格の下落 (24/6)

コア製品



Lumen BeeAT

IVC BeeAT

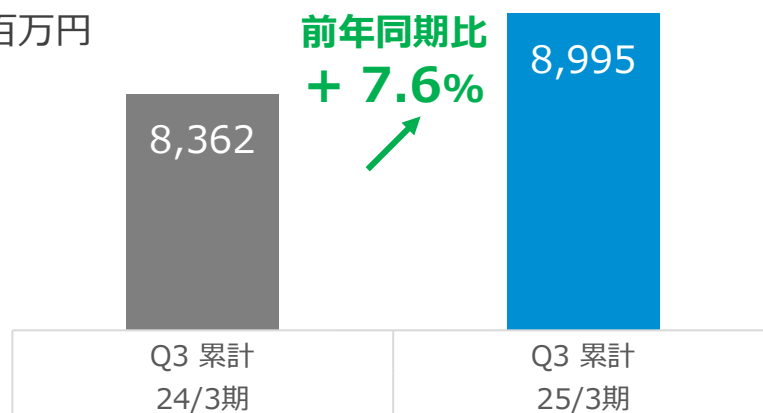


*1 Q3 (10-12月)の期間においても前年同期比10%程度の増加と推定 *2 PFA=Pulsed Field Ablation パルスフィールドアブレーション。AFの新しい治療法

Frozen Elephant Trunk(FET)*¹市場を開拓し、好調

心血管関連 売上高

単位：百万円



市況認識

※Q3末時点。前回からの追記・変更を下線で示す

- **FET症例が増加**
 - 他社の新規参入による市場活性化や新しい一体型FETの手技浸透により、年10%程度で市場が拡大中
- **公定価格の改定**
 - 人工血管 ▲3%、FETは下落なし

*1 FET：大動脈瘤などの開胸手術で使われる末梢側にステントがついている人工血管

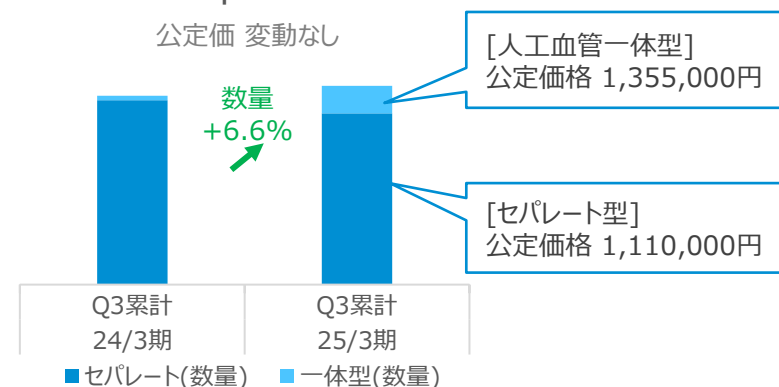
販売ハイライト

- **コア製品のFET 8.6%増収**
 - 市場の拡大に合わせて単価の高い「一体型」製品を拡販に注力
 - 推定自社シェア91%(Q3末)、ほぼ想定内
 - 不足サイズの在庫を充足し、冬場の需要期の事業機会を最大化
- **腹部ステントグラフト 7.6%増収**
 - 他社と差別化されたモデルの訴求が奏功しシェア拡大

コア製品

Frozen Elephant Trunk

公定価 変動なし



Frozenix 4B

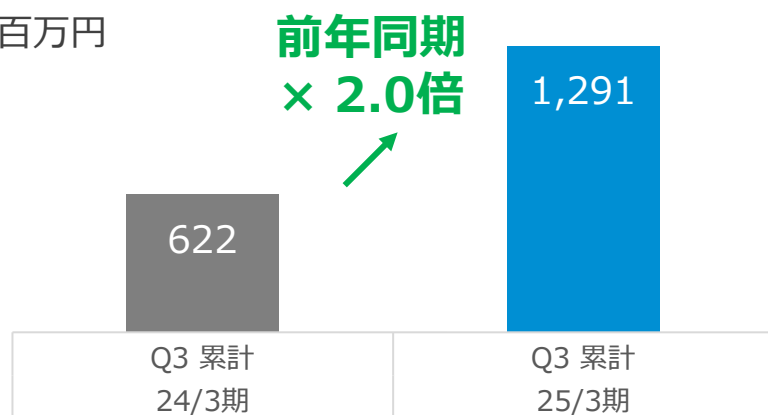


FET 人工血管一体型

高成長が継続、Q3からステントリトリーバーも貢献開始

脳血管関連 売上高

単位：百万円



市況認識

※Q3末時点。前回からの追記・変更を下線で示す

- 公定価格の改定の影響なし
- 脳動脈瘤のフローダイバーター症例が急増中
- 脳血管内のデバイス治療は現在普及期、今後 **CAGR8%程度の成長を予想**
- 参入企業は多いが、価格競争には陥っていない

販売ハイライト

脳動脈瘤

- 塞栓用コイル 前年同期比 1.7倍

➤ 新しく導入した細径モデルと腹部向けモデルが好調

脳梗塞

- 血栓吸引カテーテル 前年同期比 2.2倍

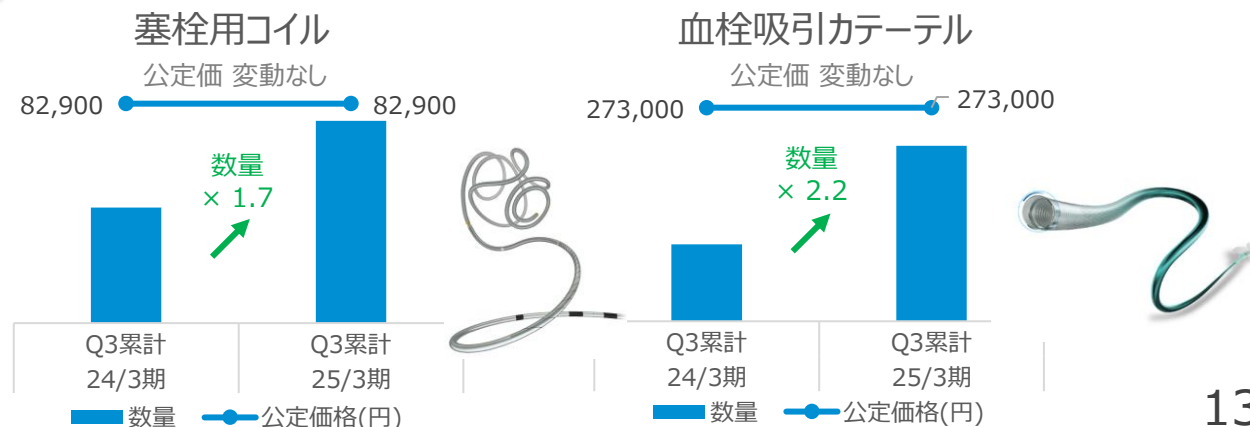
➤ 細径モデルの訴求に成功し、順調

- ステントリトリーバーを発売

➤ Q3では限定ランチながら収益貢献を開始

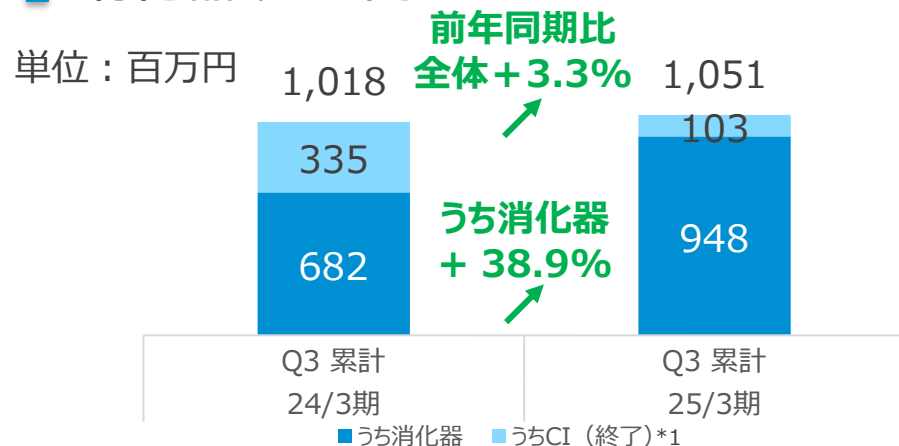
➤ 脳梗塞製品の強化で今後の成長加速を期待

注力商品



胆膵関連を中心に順調に拡大、新製品の導入も進む

消化器 売上高



販売ハイライト

- | 胆膵 | 消化管 |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> 胆管チューブステント 前年同期比 1.5倍 乳頭拡張バルーンを再上市(Q2) <ul style="list-style-type: none"> ➢ 評価良好。Q4以降、フルロンチへ | <ul style="list-style-type: none"> ダブルルーメンダイレーターを上市(Q3) 大腸用ステント 28.4%増収 胃・十二指腸用ステント 54.8%増収 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 前期に自主回収、当期Q2に再上市 |

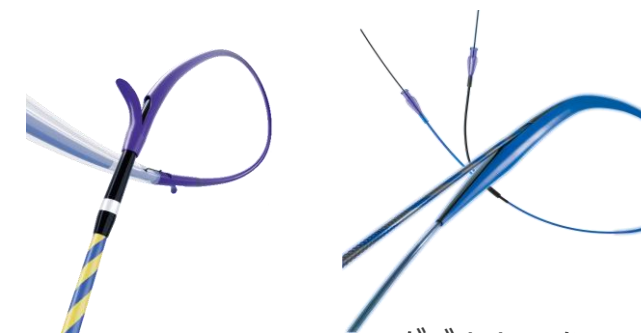
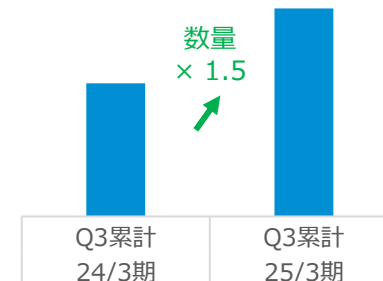
市況認識

※Q3末時点。前回からの追記・変更を下線で示す

- 胆膵処置具の市場は年3～4%で拡大
- 胆管チューブステントは公定価格が大幅に下落
 - 24/6は5%引き下げ
 - さらに、26/3にかけて累計35%の段階的な引下げへ

主力製品

胆管チューブステント



胆管チューブステント
「REGULUS」(レグルス)

ダブルルーメン
ダイレーター
「MEISSA」(メイッサ)

*1 CI: Coronary Intervention (心筋梗塞などの虚血性心疾患に対する冠動脈インターベンションに関連する事業)

01. 2025年3月期 Q3決算報告

02. 通期業績予想および配当予想の修正について

03. 質疑応答

Appendix 1 決算補足資料

Appendix 2 インベスターズガイド(サマリー版)

決算発表ごとにファクトシートを開示しております。(Excel/PDF)
当社ホームページ (<https://www.jll.co.jp/investors/>) からダウンロードできます。

✓ **通期業績予想と配当予想を上方修正。** Q3までの業績の高い進捗率と、Q4の堅調な販売見通しおよび経費支出を反映

単位：百万円 (1株当たり利益、 1株当たり配当は円)	【A】 2025/3期 通期 当初予想 2024/5/1発表	【B】			(参考) 前期比%
		2025/3期 通期 今回予想 2025/1/31発表	増減額 【B-A】	増減率%	
売上高	54,000	56,800	+ 2,800	+ 5.2	+ 10.5
営業利益	11,200	12,600	+ 1,400	+ 12.5	+ 15.7
%	20.7%	22.2%		+ 1.5pp	
経常利益	11,000	12,600	+ 1,600	+ 14.5	+ 19.1
%	20.4%	22.2%		+ 1.8pp	
当期純利益	8,000	9,200	+ 1,200	+ 15.0	+ 22.4
%	14.8%	16.2%		+ 1.4pp	
1株当たり利益	113.58円	129.78円	+ 16.20円		
1株当たり配当	46.00円	53.00円	+ 7.00円		
配当性向%	40.5%	40.4%			

2025/3期 Q4(1-3月)の見通し

- ✓ Q4の販売見通しは良好。ただし、**研究開発関連で大型の費用支出があり、営業利益以下の利益水準はやや低くなる見通し**

	2025/3期				
	Q1 (4-6月)	Q2 (7-9月)	Q3 (10-12月)	Q4予想 (1-3月)	修正後 通期予想
売上高	14,010	13,974	14,825	13,988	56,800
営業日数 (日)	62	62	62	57	243
1営業日あたり売上高	225	225	239	245	233
売上総利益	8,583	8,380	8,946	8,389	34,300
%	61.3	60.0	60.3	60.0	60.4
販管費	5,388	5,314	5,300	5,696	21,700
営業利益	3,194	3,065	3,646	2,693	12,600
%	22.8	21.9	24.6	19.3	22.2
当期純利益	2,340	2,094	2,635	2,128	9,200
%	16.7	15.0	17.8	15.2	16.2

Q4は営業日数が少ないが、1営業日あたり売上高は当期中での最高を見込む

研究開発関連等の費用増を見込む

01. 2025年3月期 Q3決算報告

02. 通期業績予想および配当予想の修正について

03. 質疑応答 ※[こちら](#)でQ&Aのスク립トを開示予定

Appendix 1 決算補足資料

Appendix 2 インベスターズガイド(サマリー版)

決算発表ごとにファクトシートを開示しております。(Excel/PDF)
当社ホームページ (<https://www.jll.co.jp/investors/>) からダウンロードできます。

01. 2025年3月期 Q3決算報告

02. 通期業績予想および配当予想の修正について

03. 質疑応答

Appendix 1 決算補足資料

Appendix 2 インベスターズガイド(サマリー版)

決算発表ごとにファクトシートを開示しております。(Excel/PDF)
当社ホームページ (<https://www.jll.co.jp/investors/>) からダウンロードできます。

2025/3期 Q3(10-12月)連結PL

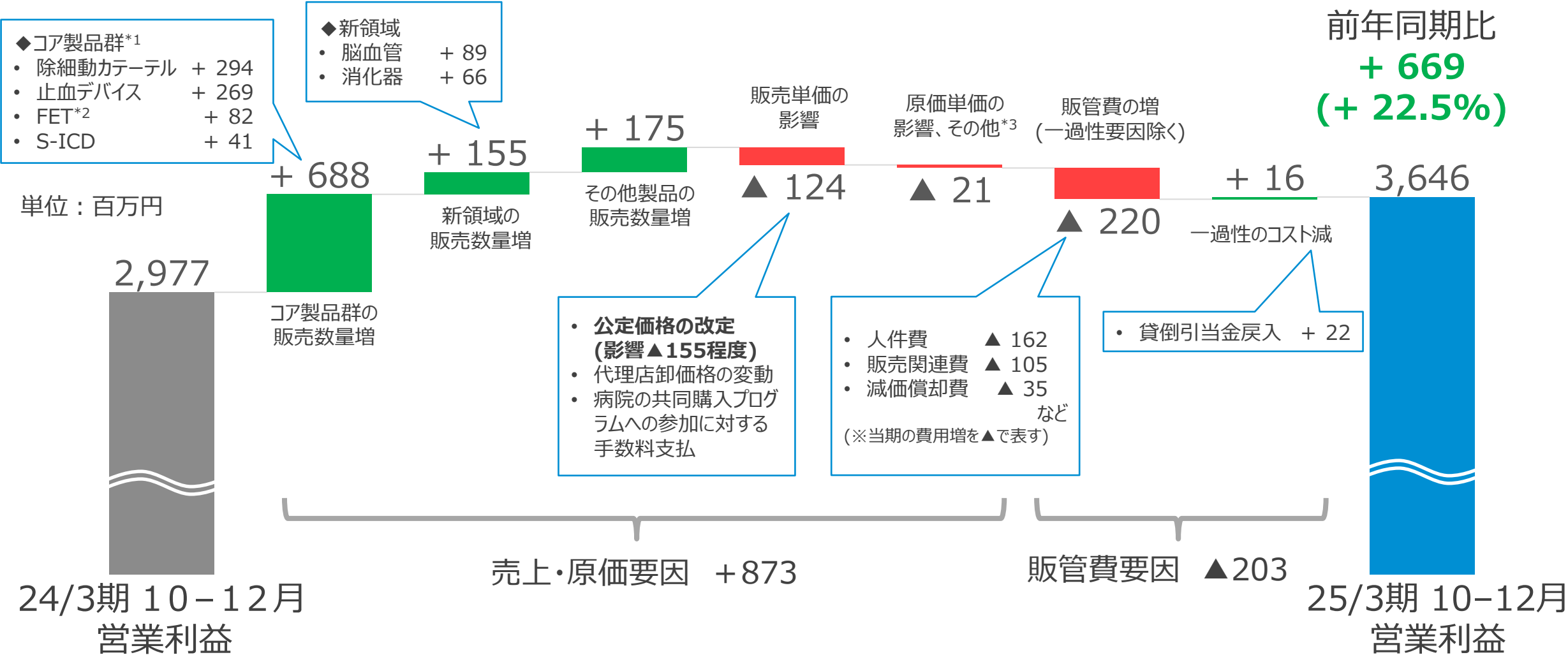
✓ Q3(10-12月)の売上高および各利益は四半期ベースで過去最高を更新

単位：百万円	2024/3期 10-12月	2025/3期 10-12月	前年 同期比	前年 同期比%	コメント
売上高	13,170	過去最高 14,825	+ 1,655	+ 12.6	(+) 症例増による販売増 (+) 新領域の拡大
売上総利益	8,073	過去最高 8,946	+ 873	+ 10.8	(-) 自社製品比率が低下 (-) 公定価格の下落 (+) 自社製品の原価低減
%	61.3%	60.3%		▲ 1.0pp	
販管費	5,096	5,300	+ 203	+ 4.0	次ページで詳細説明
営業利益	2,977	過去最高 3,646	+ 669	+ 22.5	次ページで詳細説明
%	22.6%	24.6%		+ 2.0pp	
当期純利益	2,139	過去最高 2,635	+ 496	+ 23.2	
%	16.2%	17.8%		+ 1.6pp	
自社製品比率	58.8%	57.6%		▲ 1.2pp	(-) 脳血管、止血デバイスの拡大*1
海外売上高比率	1.8%	1.9%		+ 0.1pp	
1株当たり利益	28.32円	37.60円	+ 9.28円	+ 32.8	(+) 発行済株式数*2の減少

*1 仕入商品の売上高は前年同期比15.0%増加（自社製品は同9.5%増加） *2 期中平均・自己株式を除くベース

2025/3期 Q3(10-12月) 営業利益の増減分析

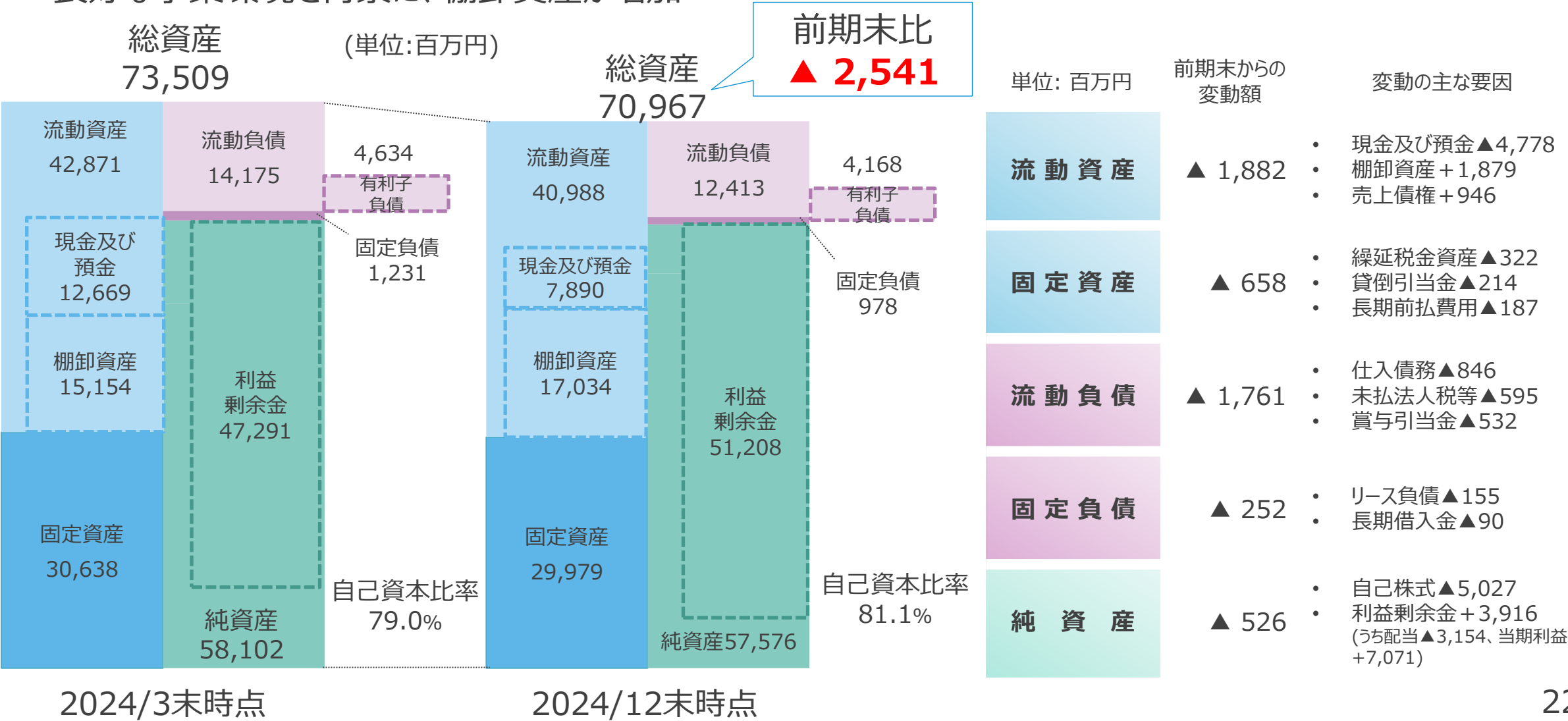
✓ コア製品群が好調、一過性のコスト要因もなく、20%以上の大幅増益を達成



*1 競争力が高く特に注力する製品群 *2 Frozen Elephant Trunk (フローズンエレファントランク) (従来呼称の「オープンス Tent グラフト」から変更) *3 製品廃棄・評価損の影響等を含む

2025/3期 Q3 BSサマリ (対前期末)

- ✓ 自己株式の取得、配当支払等により、前期末からバランスシートは縮小
- ✓ 良好な事業環境を背景に、棚卸資産が増加



品目別売上高の詳細

			2022/3期	23/3期	24/3期					25/3期				
			通期	通期	Q1	Q2	Q3	Q4	通期	Q1	Q2	Q3	Q4予	通期 修正予
ペースメーカー関連	ペースメカ、CRT-P、リード	百万円	5,899	4,979	1,344	1,208	1,371	1,316	5,241	1,381	1,098	1,114	984	4,580
ICD関連	S-ICD、CRT-D、リード	百万円	6,747	7,049	1,994	1,917	2,009	1,936	7,857	1,978	2,035	2,171	1,974	8,160
その他	AED	百万円	330	374	108	98	91	104	402	109	121	107	101	440
リズムデバイス		百万円	12,977	12,403	3,446	3,224	3,472	3,356	13,501	3,469	3,256	3,393	3,060	13,180
前年比		%	▲2.0	▲4.4	+11.4	+0.8	+12.5	+11.1	+8.9	+0.7	+1.0	▲2.3	▲8.8	▲2.4
EPカテーテル	心腔内除細動カテーテル「BeeAT」、食道温カテーテル	百万円	18,412	19,654	5,578	5,213	5,244	5,175	21,211	5,971	5,711	5,766	5,350	22,800
ABLカテーテル	内視鏡レーザーアブレーションカテーテル「HeartLight」	百万円	1,232	1,011	228	187	200	223	840	204	187	153	134	680
その他	止血デバイス、スティラブルシース	百万円	5,455	5,626	465	470	564	696	2,197	925	1,122	1,310	1,342	4,700
EP/アブレーション		百万円	25,099	26,292	6,272	5,872	6,009	6,095	24,249	7,101	7,021	7,229	6,827	28,180
前年比		%	+5.2	+4.8	▲5.9	▲7.5	▲7.0	▲10.6	▲7.8	+13.2	+19.6	+20.3	+12.0	+16.2
人工血管関連	フローズンエレファントトランク、人工血管、腹部ステントグラフト	百万円	9,368	10,353	2,639	2,441	2,949	2,926	10,956	2,686	2,720	3,204	3,039	11,650
その他	心房中隔欠損閉鎖器具	百万円	748	423	78	133	120	117	449	97	151	135	104	490
心血管関連		百万円	10,117	10,776	2,718	2,574	3,069	3,044	11,406	2,784	2,871	3,339	3,144	12,140
前年比		%	+1.5	+6.5	+5.0	+4.5	+6.7	+7.0	+5.9	+2.5	+11.5	+8.8	+3.3	+6.4
脳血管関連	塞栓用コイル、血栓吸引カテーテル、ステントリトリバー	百万円	12	230	135	218	269	289	912	347	452	491	508	1,800
脳血管関連		百万円	12	230	135	218	269	289	912	347	452	491	508	1,800
前年比		%	-	+1753.6	+473.3	+537.9	+270.1	+191.1	+296.7	+157.5	+107.0	+82.5	+75.6	+97.3
消化器関連	胆管チューブステント、大腸ステント、肝がんニードル	百万円	453	654	220	223	238	242	925	273	324	350	441	1,390
その他	終了事業（コロナリー・インターベンション、旧PI関連）	百万円	2,808	1,394	161	63	110	53	388	33	48	20	6	110
消化器		百万円	3,261	2,048	381	287	349	296	1,314	307	373	371	448	1,500
前年比		%	▲22.4	▲37.2	▲36.4	▲39.3	▲31.4	▲36.3	▲35.8	▲19.6	+29.9	+6.4	+51.3	+14.1
連結売上高		百万円	51,469	51,750	12,954	12,177	13,170	13,081	51,384	14,010	13,974	14,825	13,988	56,800
前年比		%	+0.4	+0.5	▲0.1	▲2.7	+1.2	▲1.3	▲0.7	+8.2	+14.8	+12.6	+6.9	+10.5

JL Japan Lifeline

- | メイン区分 | サブ区分 | 2025/3期 Q3 実績 | | 2025/3期 Q4 予想 | | 2026/3期 Q1 予想 | |
|------------|-----------------|---|------------------------------------|---|--------------------------------------|---|--|
| | | 営業日数：63 | | 営業日数：57 | | 営業日数：62 | |
| リズムデバイス | ペースメーカ関連 |  | 他社リードレス製品の拡大 |  | 競争環境は前Qから大きな変化なし(営業日数影響) |  | 競争環境は前Qから大きな変化なし(営業日数影響) |
| | ICD関連 |  | S-ICD好調 |  | 競争環境は前Qから大きな変化なし(営業日数影響) |  | 競争環境は前Qから大きな変化なし(営業日数影響) |
| EP/アブレーション | EPカテーテル |  | AF症例YoY+約10%、PFA症例の拡大による食道カテーテル等の減 | 
前回：→ | AF症例YoY+10%強想定、PFA症例の拡大による食道カテーテル等の減 |  | PFAの浸透さらに進み、AF症例YoY+10%強継続。除細動カテーテルには恩恵。 |
| | ABLカテーテル | 
前回：→ | HeartLight X3低調 |  | 前Qから大きな変化なし |  | 前Qから大きな変化なし |
| | その他 |  | 止血デバイス続伸、ステーラブルシースの新製品寄与 | 
前回：↗ | 前Qから大きな変化なし |  | 止血デバイスは緩やかな増加 |
| 心血管関連 | 人工血管関連 |  | FET* ¹ の市場拡大、季節性の増 | 
前回：↘ | 前Qから大きな変化なし |  | 季節性の減。FETの市場拡大は継続 |
| 脳血管関連 | 脳血管関連 |  | 販売好調、ステントリトリバー発売 |  | 血栓吸引カテーテルやステントリトリバー(フルロンチ)の貢献 |  | 前Qから大きな変化なし |
| 消化器 | 消化器
(消化管、胆膵) | 
前回：→ | 胆管チューブ続伸、胆管バルーン等の再上市品の寄与 |  | 新製品・再上市品の寄与、既存品も伸長 |  | 前Qから大きな変化なし |

凡例：

	前Qより増加 環境上向き		前Qから横ばい 良好な環境は継続		前Qより減少 環境下向き		前Qから横ばい 好ましくない環境は継続
---	-----------------	---	---------------------	---	-----------------	---	------------------------

01. 2025年3月期 Q3決算報告

02. 通期業績予想および配当予想の修正について

03. 質疑応答

Appendix 1 決算補足資料

Appendix 2 インベスターズガイド(サマリー版)

決算発表ごとにファクトシートを開示しております。(Excel/PDF)
当社ホームページ (<https://www.jll.co.jp/investors/>) からダウンロードできます。

1. 事業ハイライト

2. 戦略ハイライト

3. 業績ハイライト

◆「インベスターズガイド」とは？

—当社を初めて知る投資家様向けに、事業や戦略のポイントを分かりやすく説明する資料です。

フルバージョンは、[こちら](#)からご覧いただけます。



1. 事業ハイライト

2. 戦略ハイライト

3. 業績ハイライト

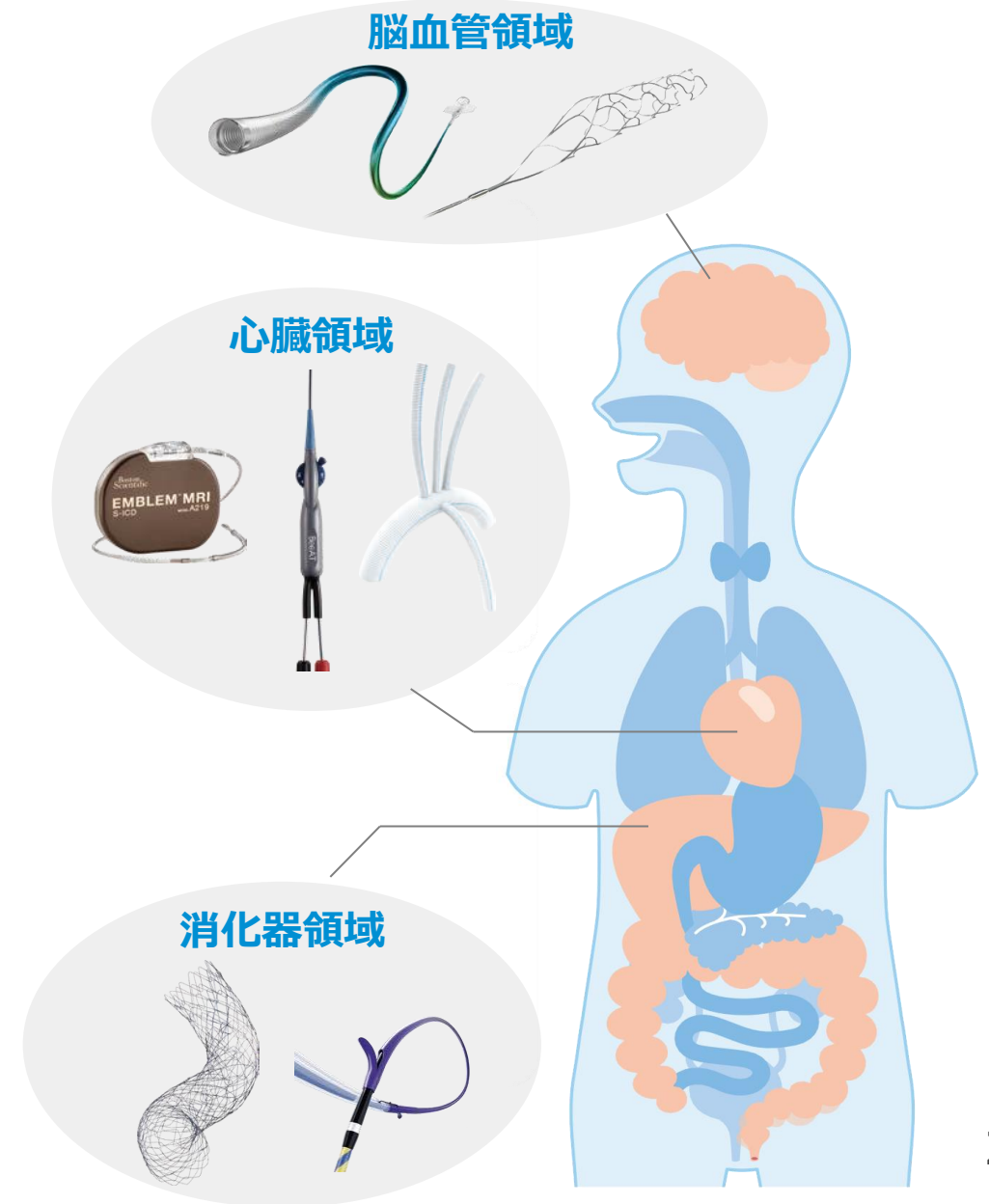
◆「インベスターズガイド」とは？

—当社を初めて知る投資家様向けに、事業や戦略のポイントを分かりやすく説明する資料です。

フルバージョンは、[こちら](#)からご覧いただけます。

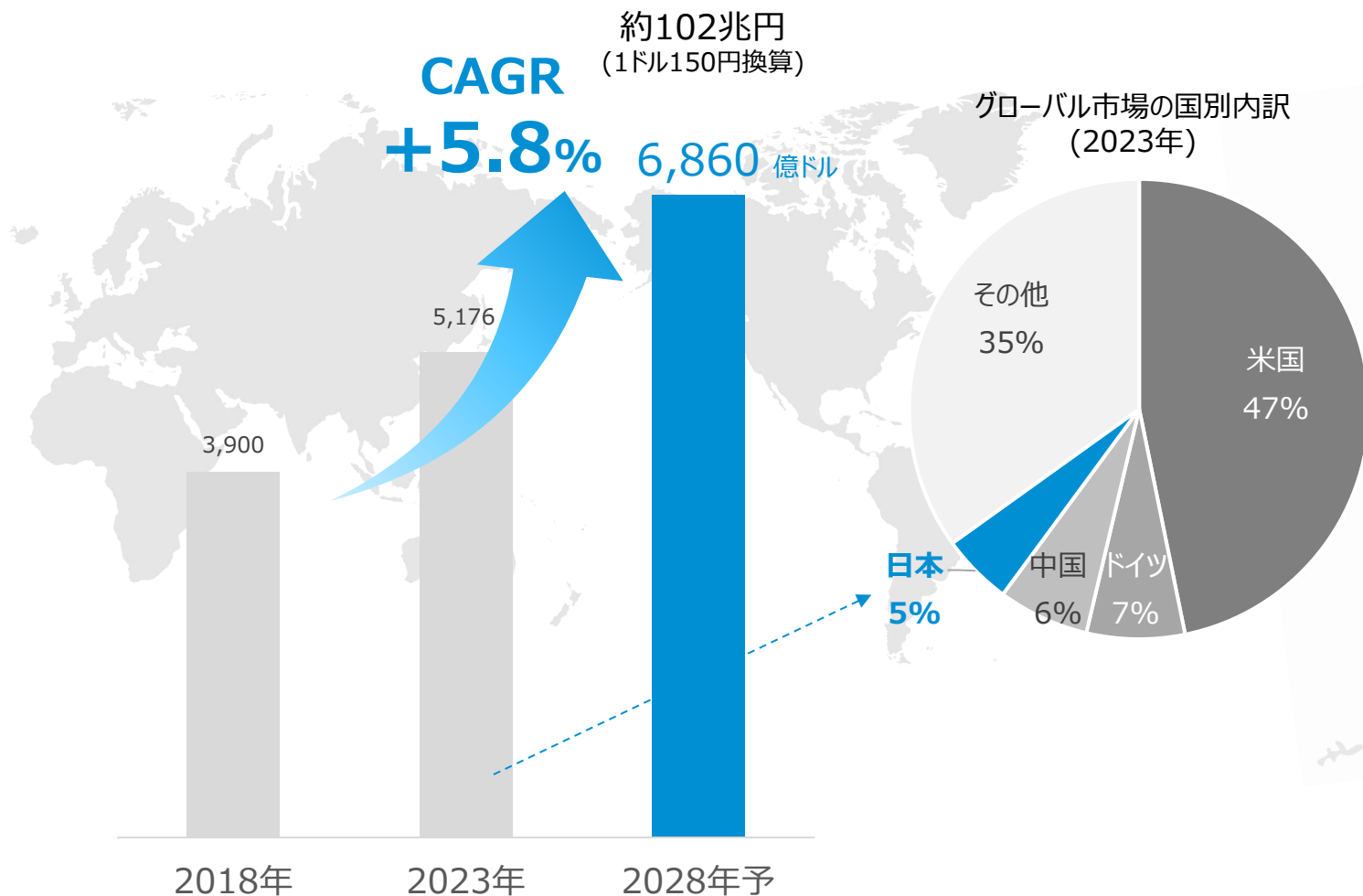


- **心臓領域**の医療機器でニッチトップ°
- 生命に関わる**高度管理医療機器**を扱う
- **高利益**(営業利益率20%+)と**高成長**を実現

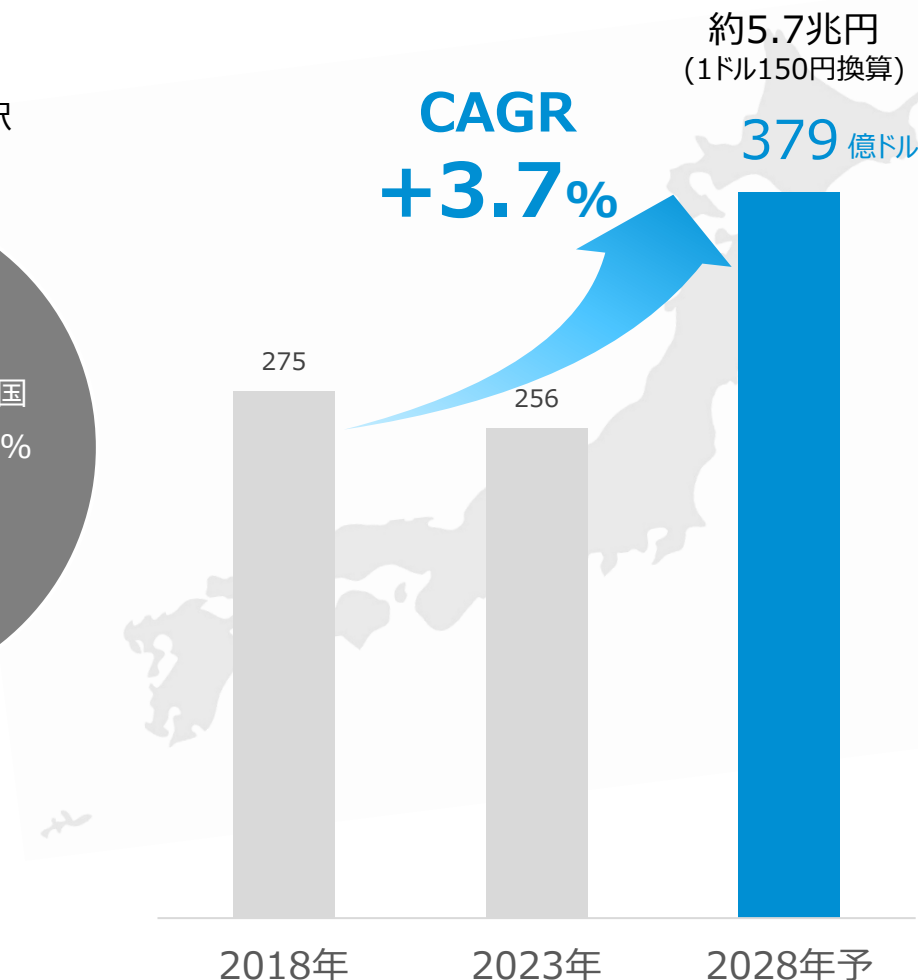


高齢化や医療技術の進歩で、グローバル/国内ともに医療機器市場は拡大する見通し

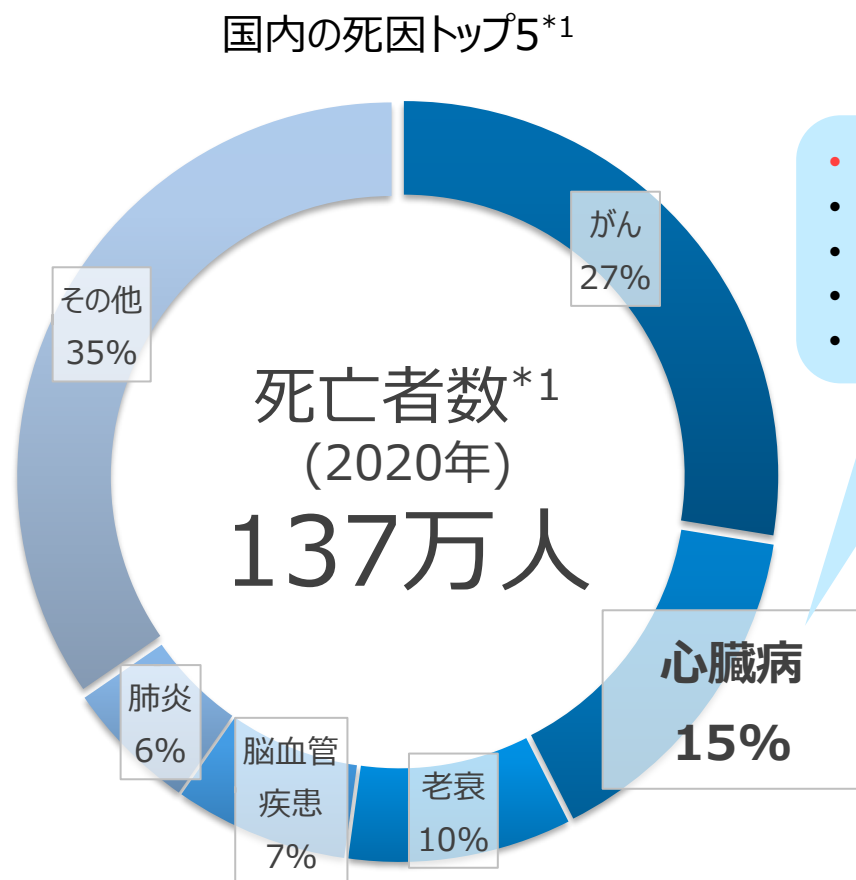
グローバル医療機器市場(億ドル)



国内医療機器市場(億ドル)

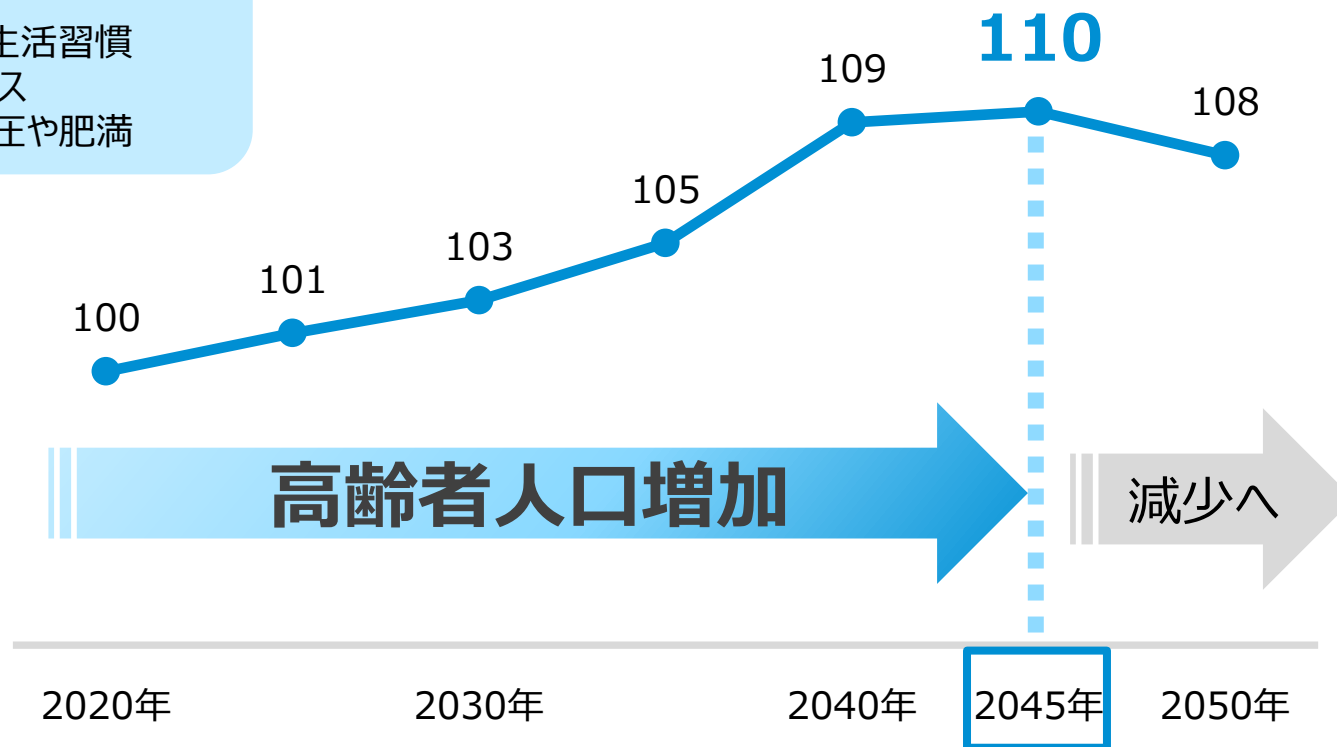


高齢者の人口増加とともに、今後20年は心臓病関連の医療需要は増加する見通し



- ・ **加齢(最大因子)**
- ・ 喫煙
- ・ 悪い生活習慣
- ・ ストレス
- ・ 高血圧や肥満

65歳以上人口の推移予測
(2020年 = 100として指数化)*2



*1 厚生労働省 令和2年(2020年)人口動態統計

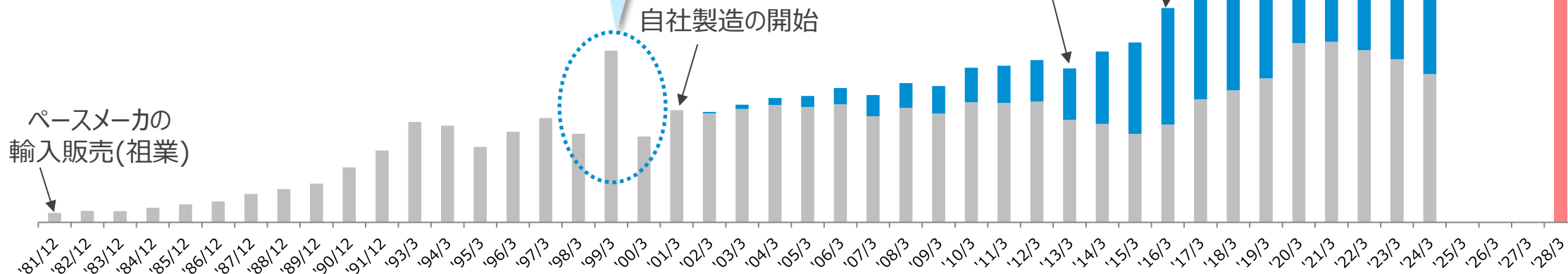
*2 内閣府 令和5年(2023年)版高齢社会白書

心臓領域に特化した商社とメーカーのハイブリッド・カンパニーとして、大きく成長

■ 売上高-自社品
■ 売上高-仕入品

✓ターニングポイント：自社製造を開始

- 1999/3期 画期的な商品(ステント)の取扱いを開始し、大きく売上を伸ばす
 - しかし、翌年度、仕入先が他社に買収され、販売権を喪失(売上大幅減)
- ⇒商社だけでなく自社製造も行い、事業リスクの低減へ



中期経営計画

商社

1981-2000年

海外の優れた医療を日本へ

商社+メーカー

2001-2023年

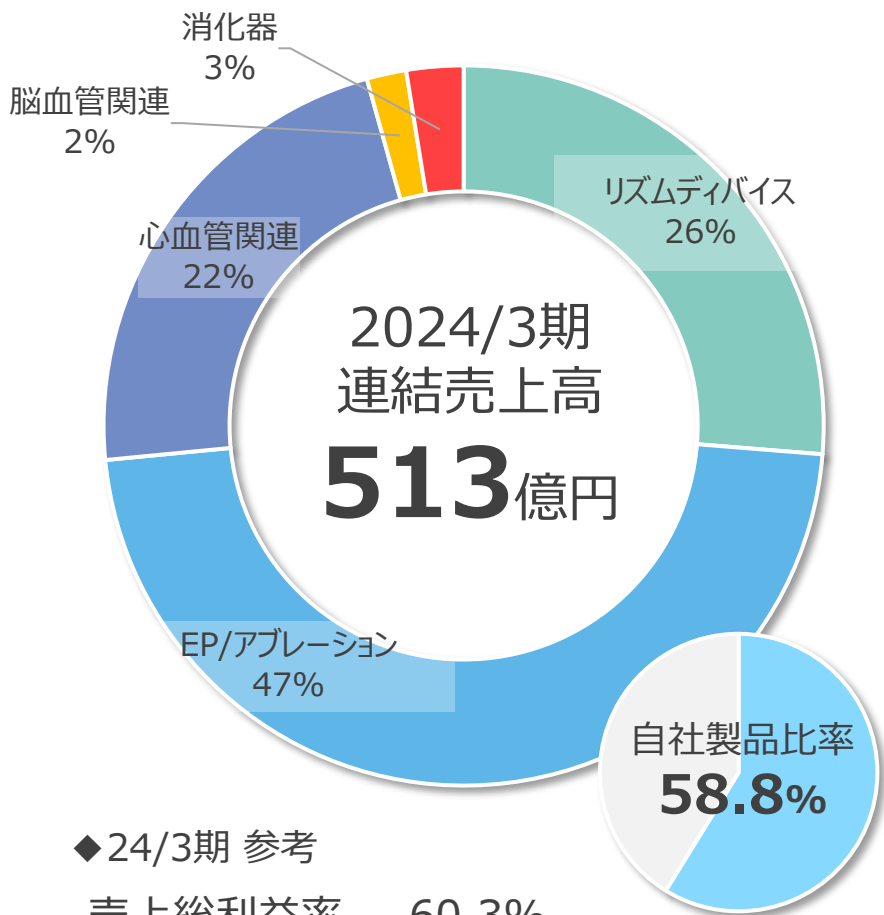
医師のニーズに応え医療機器を自社製造し、独自の付加価値を創出

商社+グローバルメーカー

2024年-

成長領域の拡大

メイン領域は心臓疾患(全体の95%)、近年は脳血管や消化器などの新領域にも進出中



◆24/3期 参考
売上総利益率 60.3%
営業利益率 21.2%

	対象疾患	主な製品	自社製品比率	事業の位置づけ
心臓	不整脈 (体内植込みデバイス)	ペースメーカや ICD 	0%	安定事業
	不整脈 (心房細動のカテーテル治療)	心腔内除細動カテーテル 	80%	中核事業
	大動脈瘤 大動脈解離	人工血管 	60%	中核事業
新領域 (心臓以外)	脳梗塞 脳動脈瘤	塞栓用コイル 	0%	成長事業
	胆管狭窄等	胆管チューブ ステント 	95%	成長事業

メーカー機能で安定した競争基盤を構築しつつ、商社機能で戦略的商品をスピーディーに導入し、ポートフォリオを補完する。これにより、ポートフォリオ全体で高い競争力を維持

メーカー



- 独自技術で医師が操作しやすい機器を製造
- 心臓領域に特化（消化器領域にも応用中）
- 毎回の手術で使うベーシックなラインナップを網羅



商社



- 海外の革新的な機器を素早く国内に導入
- 長期独占販売契約
- 戦略的に自社製品ポートフォリオのすき間を埋める

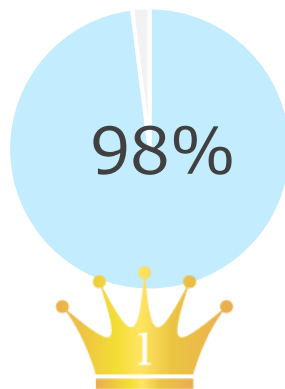
メーカーと商社のそれぞれで高い市場シェア*1を獲得

メーカー

心腔内除細動
カテーテル



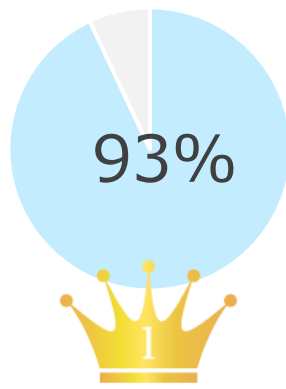
国内シェア



Frozen Elephant
Trunk



国内シェア

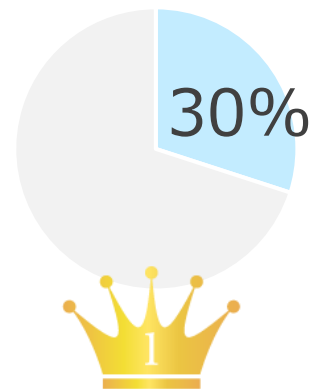


商社

ICD



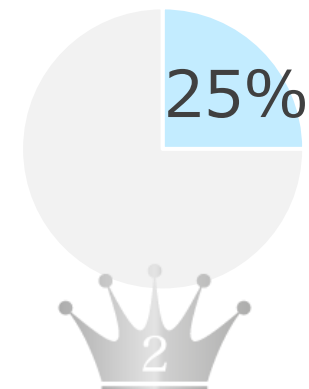
国内シェア



ステントグラフト



国内シェア



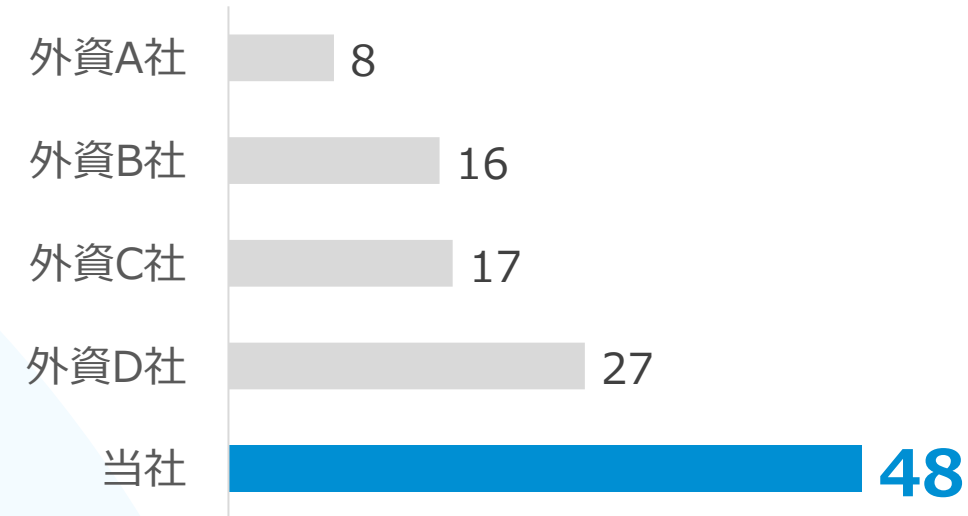
*1 市場シェアは2024年6月時点での自社推計

強み② 業界No.1の販売力

業界トップクラスの営業網を構築し、自社セールスが地域ごとにきめ細かく対応。
製品の緊急度が高いため、「いつでも顔の見える営業」は安心と信頼の付加価値を創出



当社と主な競合外資の営業拠点数の比較



出所：各社ホームページをもとに弊社作成

*1 国内で不整脈手術(アブレーション実施施設)を実施する約770施設、心臓外科手術を実施する約560施設に対する販売実績をもとに当社推定（2023年）

医療機器が手術で使用されるたびに売上が発生 ⇒ **売上は手術件数(=症例数)に連動**
 当社に関連する症例数は潜在的な増加余地が大きく、件数は中長期的に増加する見通し

収益モデル

Japan Lifeline



全国の営業拠点

① 直接営業
在庫預託



医療機関



② 手術で使用

※ここで売上を認識

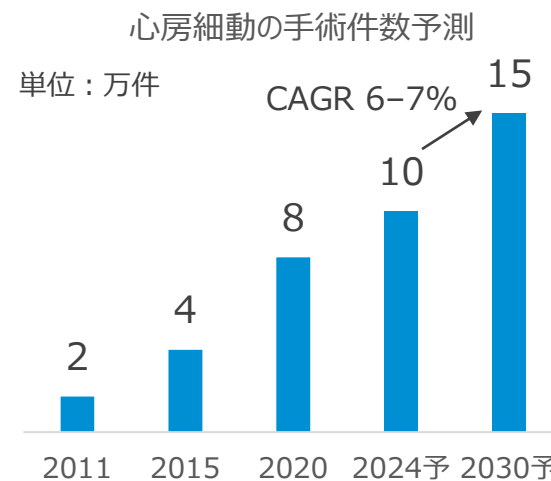
③ 支払

※販売代理店を経由



収益ドライバー：手術件数

心房細動の潜在患者数
100-170万人



出所：自社調査を元に推計

- 年間の手術件数10万件前後に対して潜在患者数は10倍以上
- 無自覚で未治療の心房細動は非常に多いと推定される

1. 事業ハイライト

2. 戦略ハイライト

3. 業績ハイライト

◆「インベスターズガイド」とは？

—当社を初めて知る投資家様向けに、事業や戦略のポイントを分かりやすく説明する資料です。

フルバージョンは、[こちら](#)からご覧いただけます。



中期経営計画(2024/3期-2028/3期) 数値目標

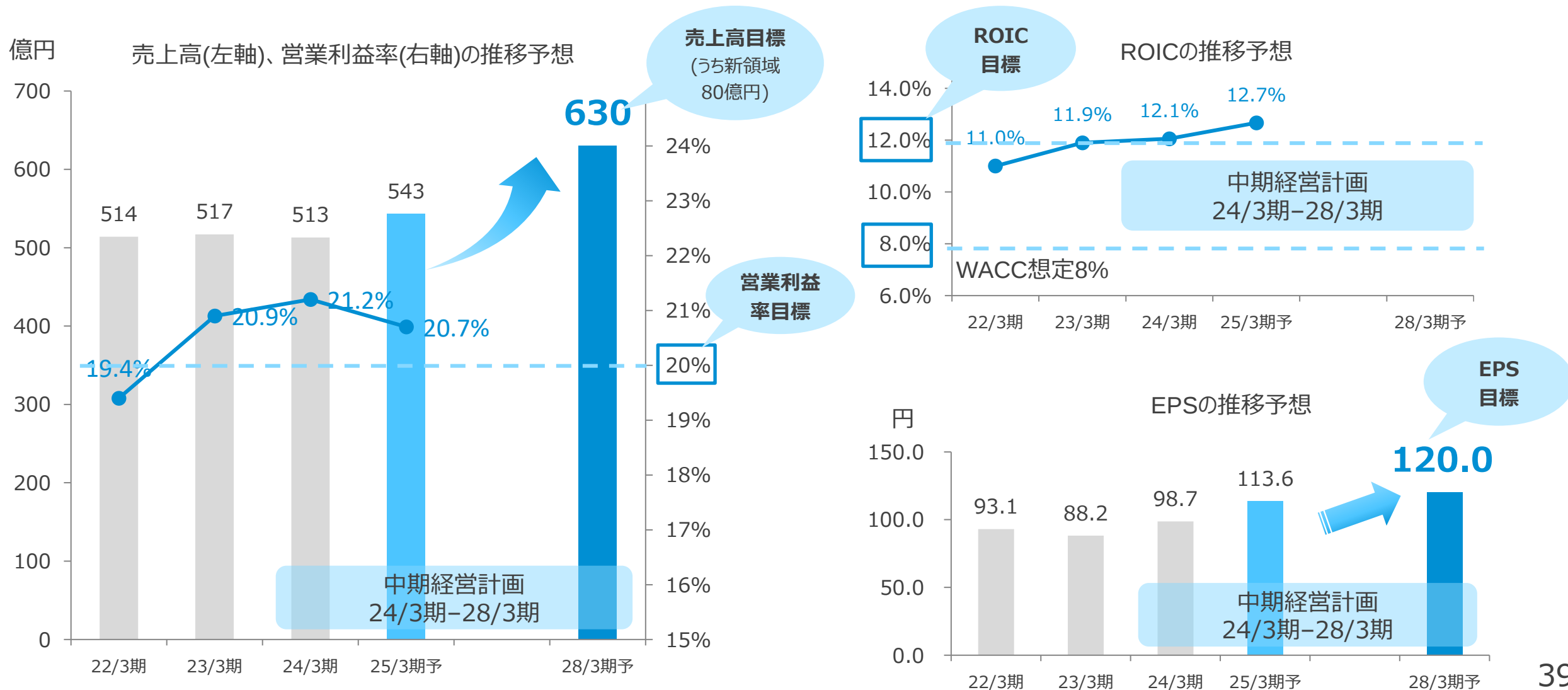
着実な事業成長と魅力的なリターンの両立を目指す

	設定時 2023/3期	目標値 2028/3期	
売上高	517億円	630億円	CAGR 4%
新領域売上高	8.8億円	80億円	CAGR 55%
営業利益率	20.9%	20%水準 (每期)	
EPS	88円	120円	CAGR 8%
ROIC	11.9%	12.0%	資本コスト8% (自社推定)

中期目標の進捗状況

より詳しくは[56ページ](#)も参照 **JL Japan Lifeline**

5か年計画の1年目は順調に進捗 (2年目=25/3期の売上高は過去最高を更新する見込み)



心臓関連に軸足を置きつつ、成長市場の脳・消化器を開拓

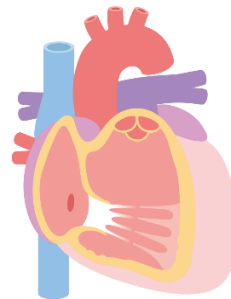
体温計や注射針からMRIや人工インプラント臓器まで
4,000分類、30万品目以上の**非常に細分化された市場**

医療機器全体の
国内市場規模
約4ー5兆円^{*1}

当社が関連する市場 約5,500億円

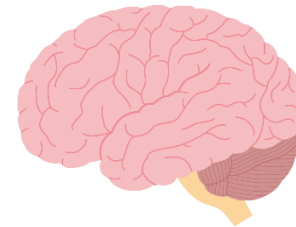
現有の製品群で6割強(約3,500億円)をカバー

心臓



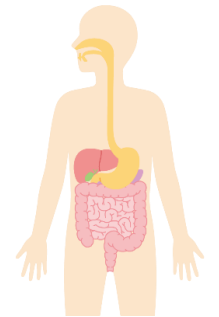
約4,470億円
中成長(年3~4%)

脳



約430億円
高成長(年8%)

消化器



約600億円
中成長(年4%)

*1 厚生労働省の薬事工業生産動態統計調査、医療機器産業ビジョン研究会「医療機器産業ビジョン2024」など

①中核事業を強化するとともに、高成長が見込める②治療領域の拡大と③グローバル市場への進出を図る

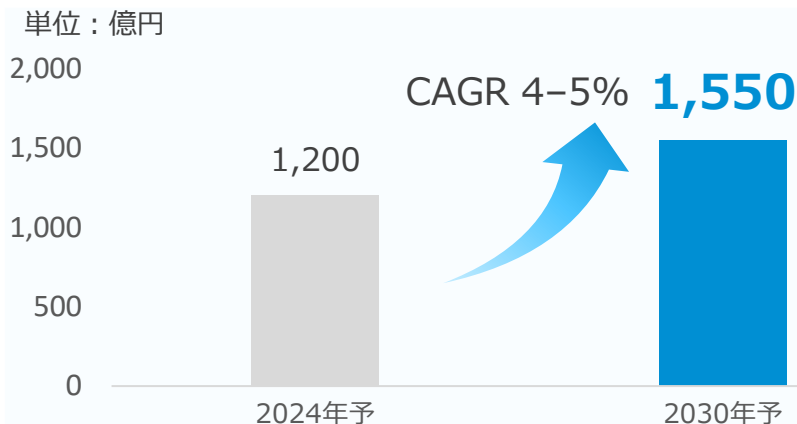
現状：海外売上高比率 2 % ⇒ 長期で大きく拡大へ



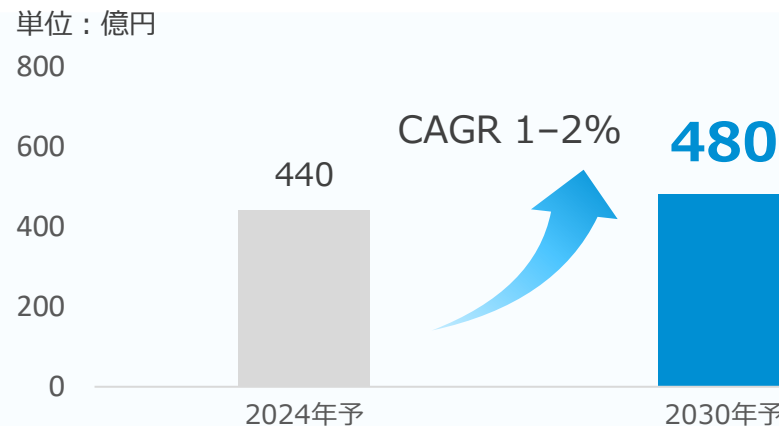
中核事業の国内市場は中期で安定的な成長を予想

国内関連市場

EP/
アブレーション



心血管関連



対象疾患

不整脈（心房細動）

- 症例数：年10万件
- 革新的な治療(PFA)の普及が予想され、**症例数は、年6-8%の堅調な増加を見込む**
- 2年に1度、公定価格の改定があるため、金額ベース市場の伸び率は年4-5%と推定

大動脈瘤／大動脈解離

- 症例数：年5万件
- 成熟市場で、症例数の増加は年1-2%
- ただし、その内訳で**Frozen Elephant Trunk**による治療は裾野が広がりが見込まれ、**年5%以上の増加を予想**

自社の強み分野を伸ばしつつ、成長ドライバーとなる製品で新市場を開拓

施策① 自社No.1をさらに強化

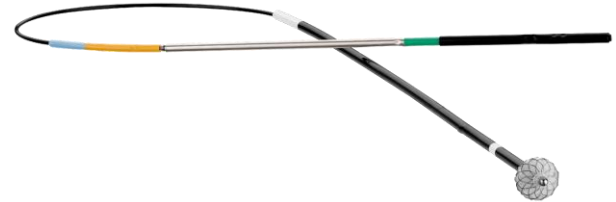
自社品



名称	SVC BeeAT	Lumen BeeAT	IVC BeeAT
リリース	2012年	2024/1	2024/4
競合	当社以外 2社	当社のみ 他社キャッチ アップ困難	当社のみ 他社キャッチ アップ困難
戦略	販売をSVCモデルからLumen・IVCモデルへ切替え 参入障壁を構築(既に30%程度切替え済み)		

施策② 新市場を開拓

仕入品



従来の止血法

手で押さえる
⇒長時間の
安静が必要



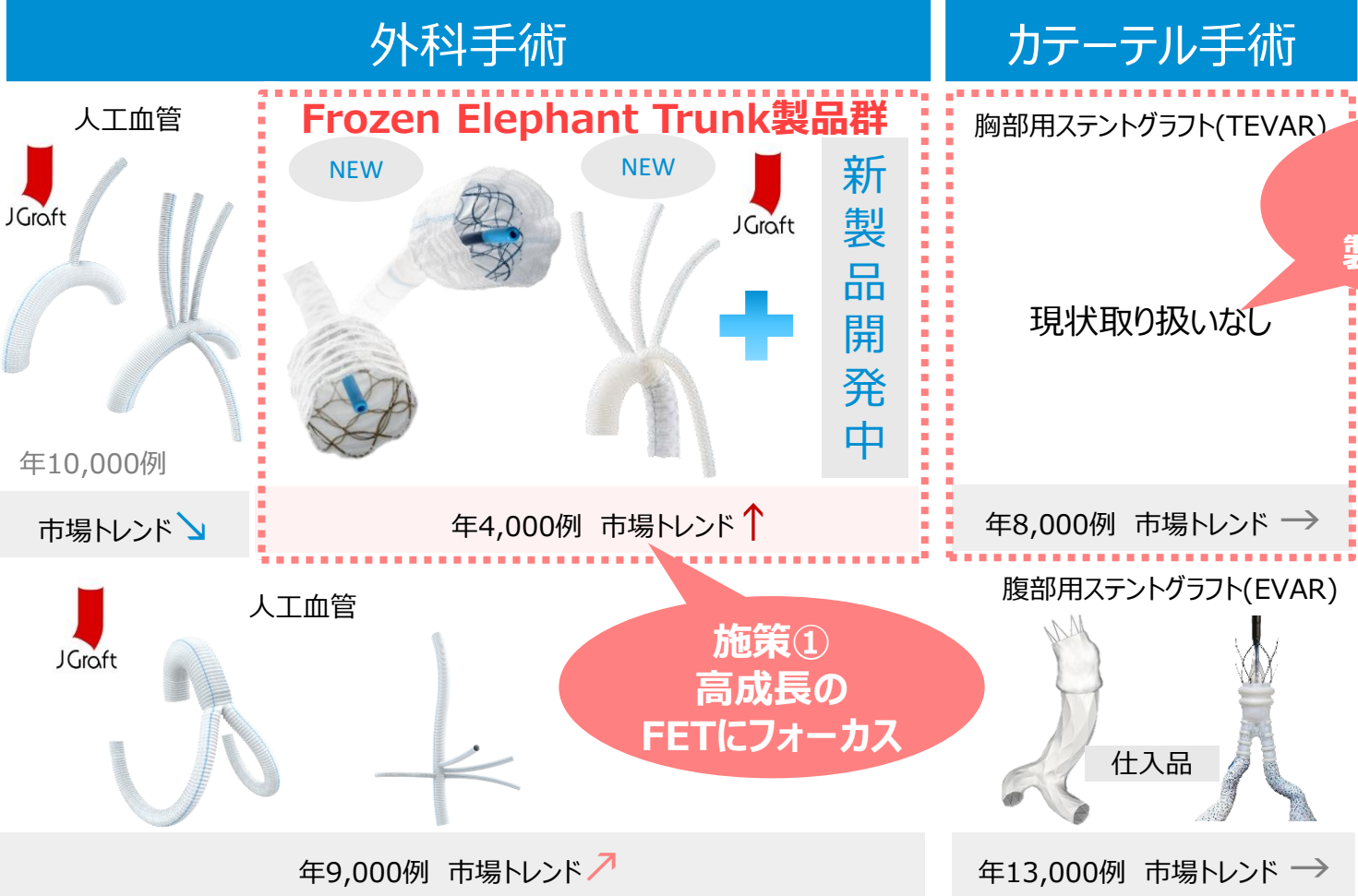
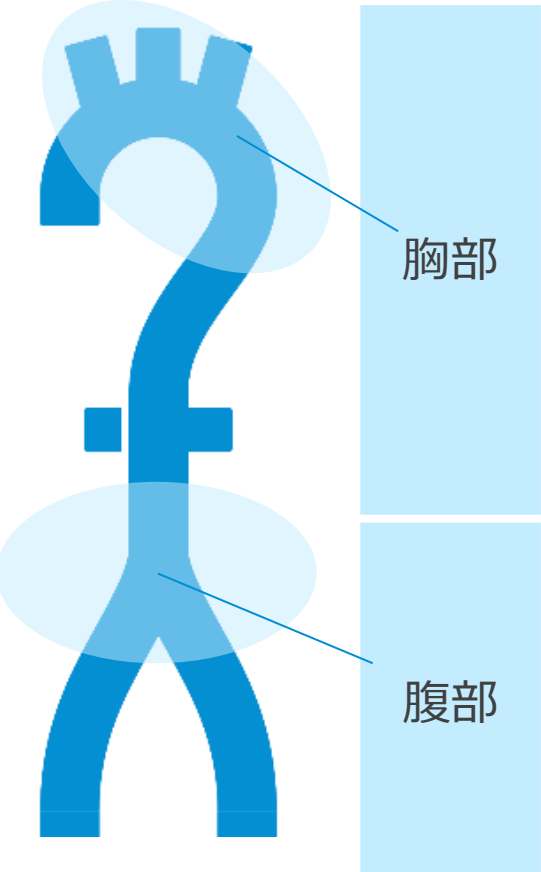
新しい止血法

早期止血
早期歩行
早期退院

- アブレーション手術後の早期止血ニーズに応える
- 推定40-50億円の未開拓の潜在市場を開拓へ

高成長市場のFrozen Elephant Trunkにフォーカス。胸部用ステントグラフトにも再参入。
フルラインのポートフォリオを構築し、あらゆる症例に対応可能なリーディングカンパニーを目指す

大動脈のイメージ



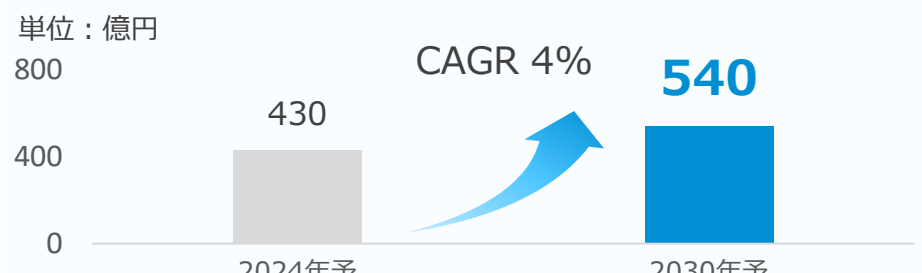
施策②
競争力ある
製品で再参入へ

* 各症例数は自社推計

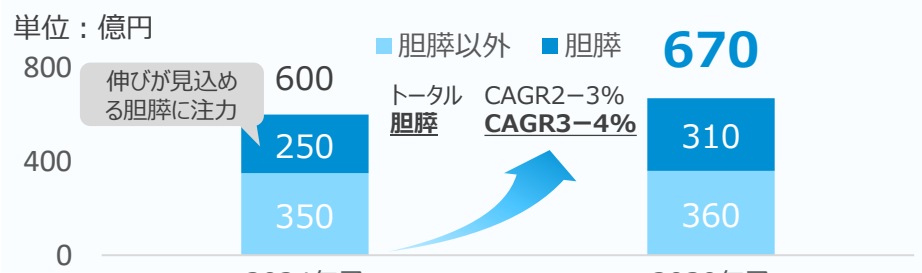
今後の成長が見込まれる領域へ治療領域を拡大

国内関連市場

脳血管関連

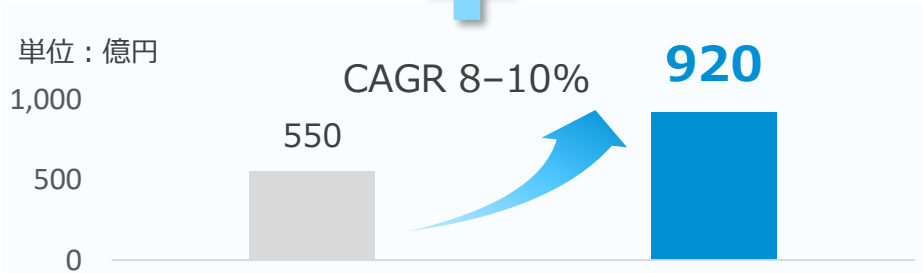


消化器



構造的心疾患
(うちTAVRのみ)

NEW



対象疾患

脳血管内のカテーテル治療(脳動脈瘤・脳梗塞)

- 血管内治療 症例数：年間5-6万件*1
- 潜在患者数は多く、血管内治療は急速に普及中
- 心臓領域と異なり、価格競争はマイルド

胆管がんや胆管結石等

- 胆膵関連 ERCP症例数：年間27万件*2
- 内視鏡を使って胆管・膵管のがん切除や結石の除去を行う。手術で使われる処置具の市場は年3%+で拡大

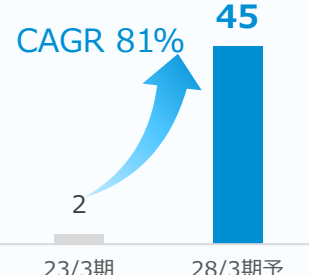
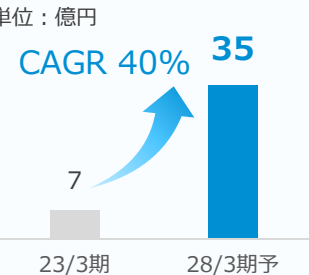
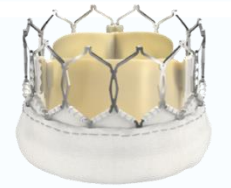
心臓弁膜症のカテーテル治療

- TAVR症例数：年間1.5万件*3
- 推定潜在患者数200-300万人、65歳以上の10人に1人がかかる

「構造的心疾患」は当初の中期経営計画では見込んでいなかった領域 (アップサイドポテンシャル)

*1 血管内治療(脳動脈瘤のコイル塞栓術、脳梗塞の血栓回収両方、頸動脈ステント術などの合計) *2 ERCP(内視鏡的逆行性胆道膵管造影) [NDBオープンデータ](#)等を踏まえて自社推計
*3 TAVR(経カテーテル大動脈弁置換術) 件数は関連学会での発表等を参考に自社推計

差別化された新製品を次々に上市し、早期にニュープレイヤーとしての市場プレゼンスを確立へ

	戦略	売上目標	マイルストーン
脳血管  仕入品	脳梗塞と脳動脈瘤の製品群(仕入品)をタイムリーに上市 ⇒契約スキーム p57	単位：億円 CAGR 81% 	2025/3期 完了 脳梗塞治療のフルライン化*1 → 2026-27/3期 進捗中 脳動脈瘤のキープロダクト(フローダイバーター)を上市 → 2028/3期 脳血管で業界No.1ポートフォリオを完成  フローダイバーター(※国内未承認品)
消化器  自社品	胆膵分野の製品群(自社品)をタイムリーに上市	単位：億円 CAGR 40% 	2025/3期 進捗中 アクセス系の処置具*2拡充 → 2026-27/3期 進捗中 診断治療系処置具*3拡充 → 中長期 自社オンリーワンの治療機器を上市  胆道鏡システム「DRES」(開発イメージ)
構造的心疾患  仕入品	差別化された仕入商品を2027/3期頃を目指して上市 ⇒契約スキーム p60		2027/3期ごろ 国内承認取得・上市  Meril Life Sciences社製 経カテーテル生体弁「Myval Octacor」(※国内未承認品)

*1 血栓吸引カテーテルおよびステントリトリバー (いずれも上市済み) *2 ガイドワイヤ、ダイレクタ、バルーンなど *3 結石回収、ステント、胆道鏡など

中長期で海外市場への進出に取り組む

短期

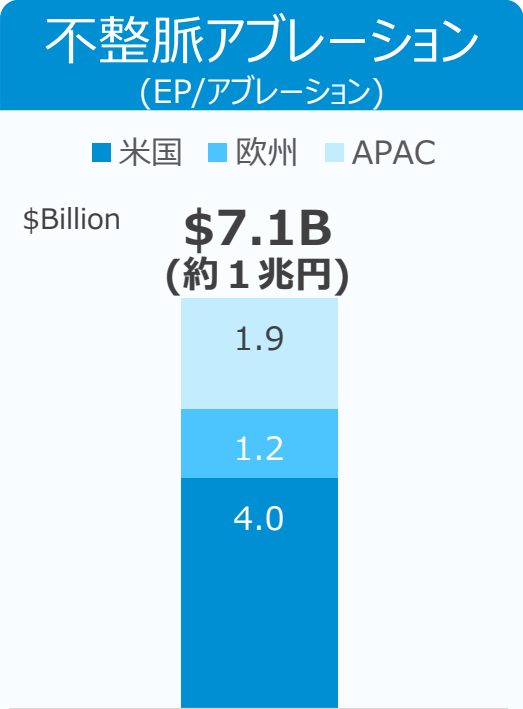
中東・アジアの販路立上げ
(進行中)

- ✓ 代理店との交渉加速
- ✓ 10数か国への展開を検討
- ✓ EP/アブレーション、心血管関連、消化器の幅広い自社製品が対象
- ✓ 既に、アジア6国・地域&北米向けの輸出あり、輸出売上高比率2%程度

中長期

欧州・米国市場へ進出

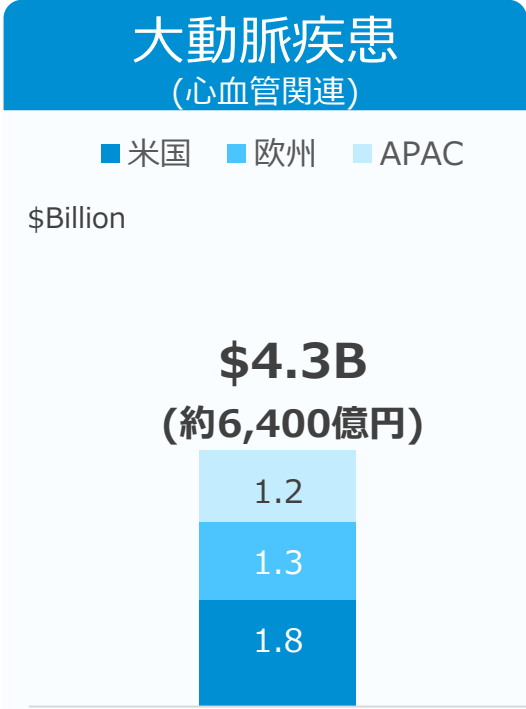
- ✓ 自社製品の米FDA承認取得
- ✓ 自社の高機能シャフトの独自技術を活かしたOEM製造の可能性を模索



心房細動関連市場(グローバル)

市場伸び率(～2030年頃)
CAGR 10%+

出所：自社推定。診断・治療カテーテル、ステントカテーテル、エコーカテーテル、アクセサリを含む。3Dマッピング装置やモニター類は除外。

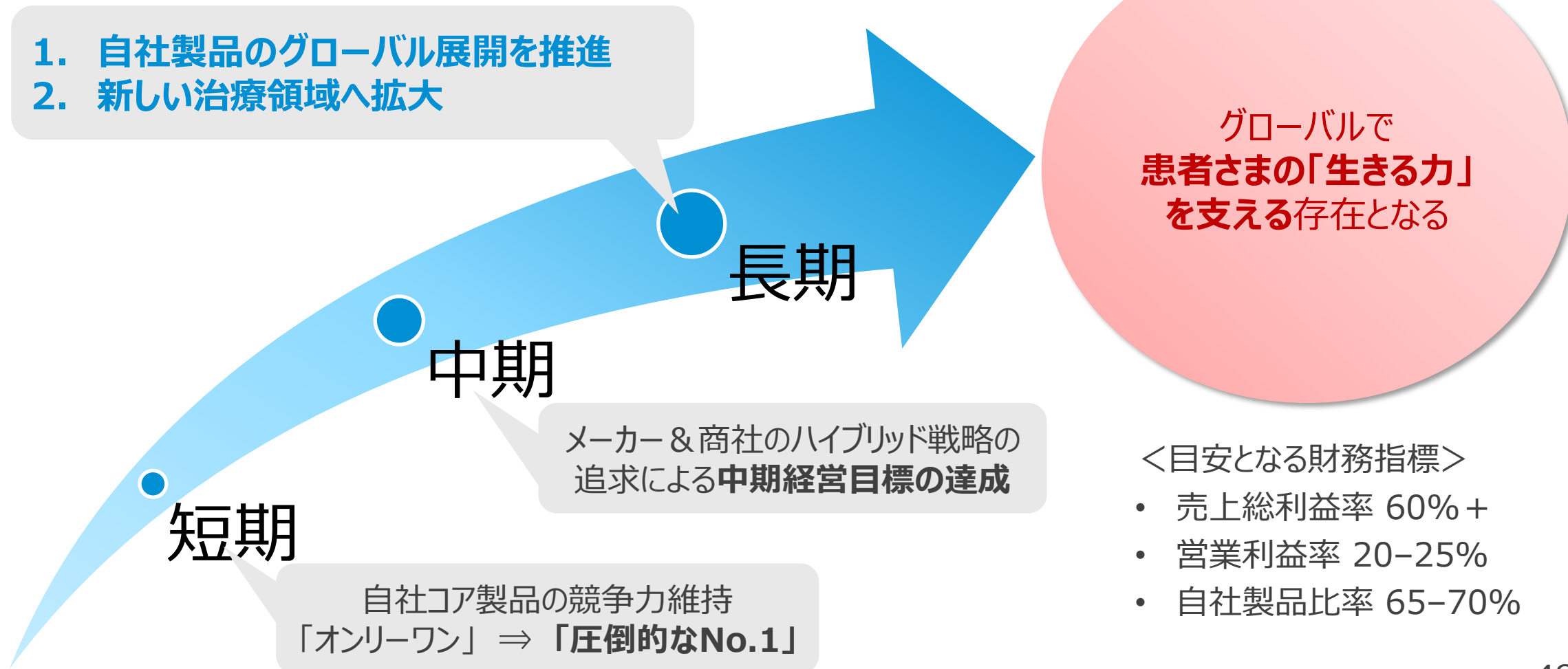


大動脈疾患関連市場(グローバル)

市場伸び率(～2030年頃)
CAGR 7-8%

出所：自社推定。人工血管(大血管)、Frozen Elephant Trunk、胸部・腹部ステントグラフトを含む

「メーカー×商社」のハイブリッドは攻守にバランスの取れた戦略として堅持する
自社製品の海外販路拡大や治療領域の拡大を戦略的に推進



1. 事業ハイライト

2. 戦略ハイライト

3. 業績ハイライト

◆「インベスターズガイド」とは？

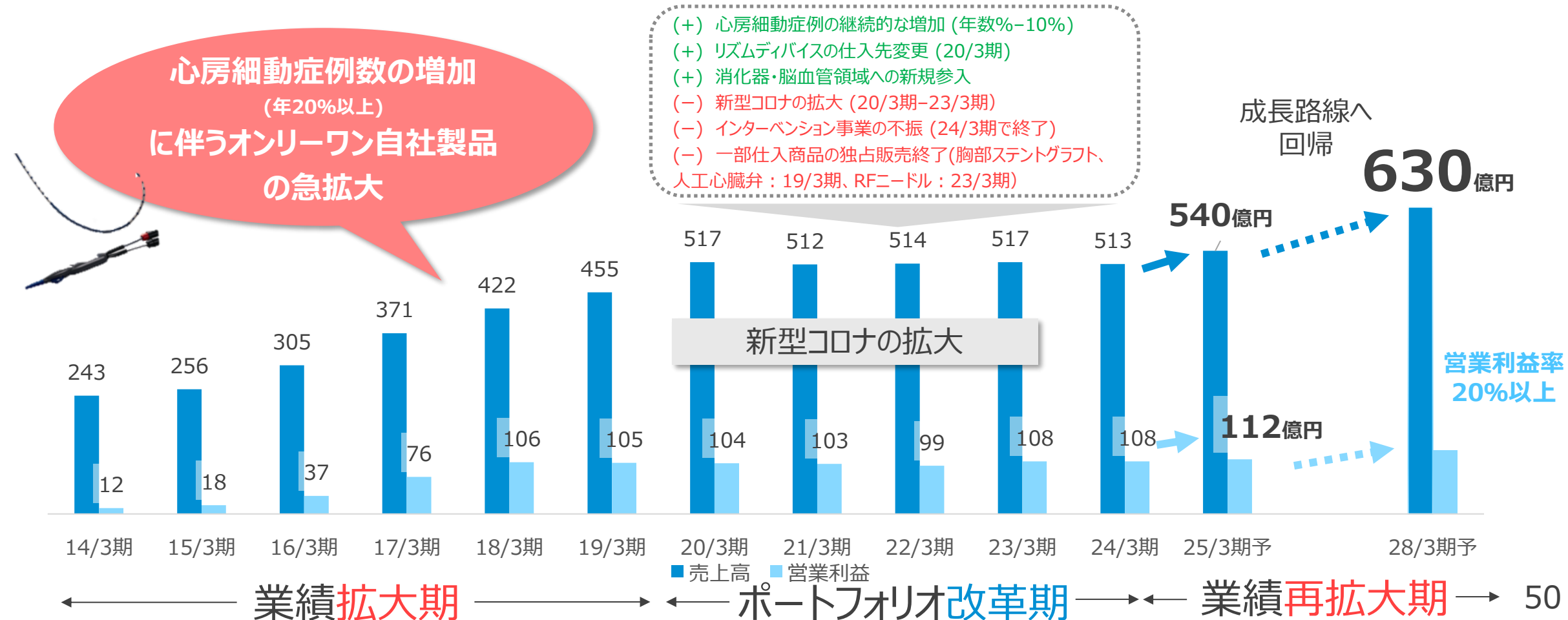
—当社を初めて知る投資家様向けに、事業や戦略のポイントを分かりやすく説明する資料です。

フルバージョンは、[こちら](#)からご覧いただけます。



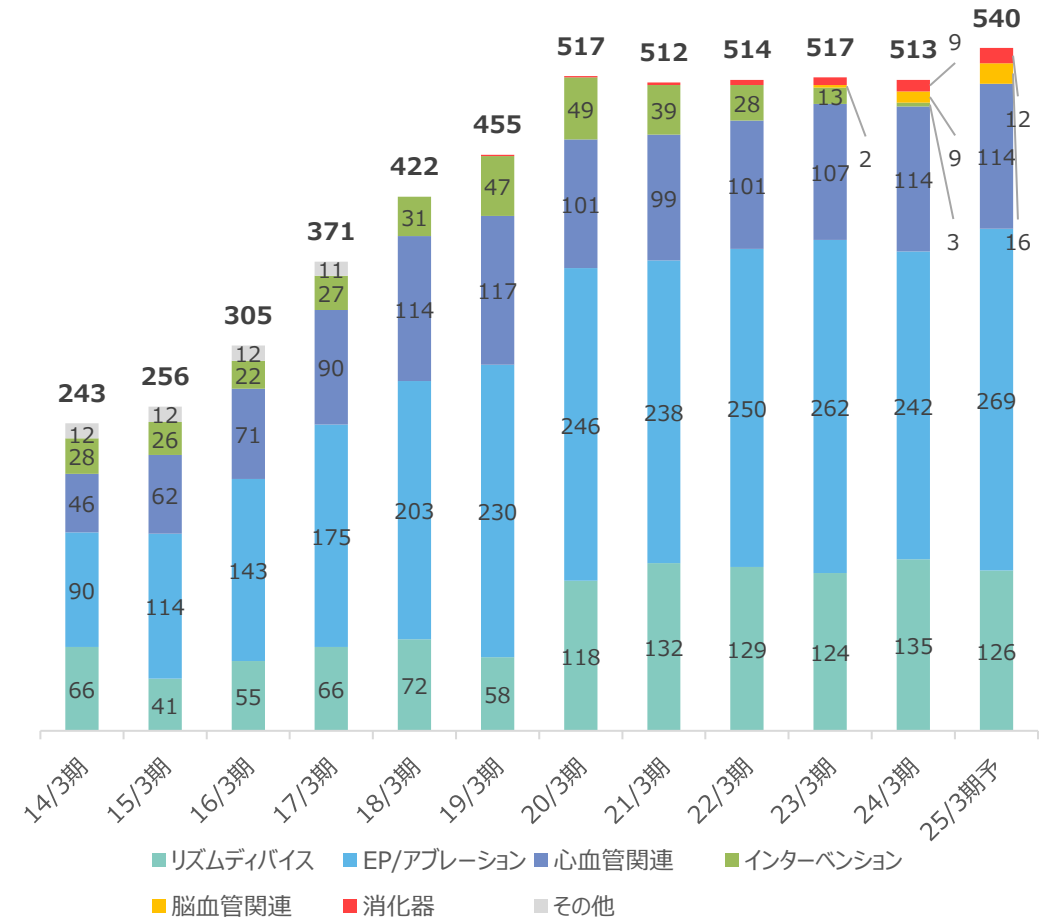
症例数の増加を契機に**自社製品で大きく成長**。ポートフォリオ改革で業績は一時横ばいだったが、足元は新領域を強化する等の**成長戦略を打ち出し、新たな成長フェーズに向かう**

売上高と営業利益の実績推移 (単位：億円)

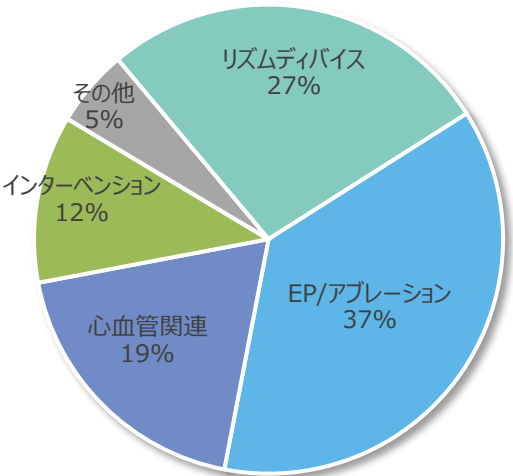


中核のEP/アブレーションを強化しつつ、成長戦略でポートフォリオの新陳代謝も推進

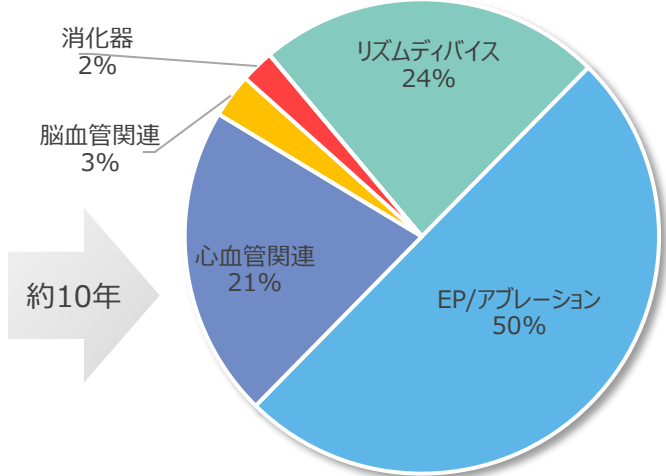
品目別の売上高推移(単位：億円)



2014/3期 売上構成比



2025/3期 売上構成比(予)



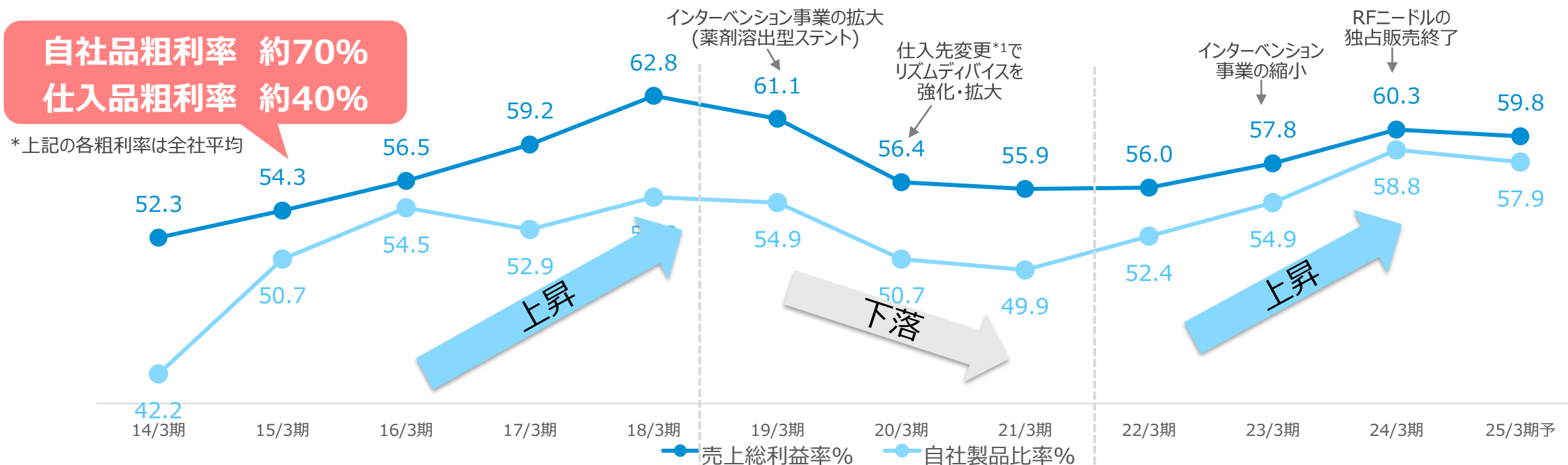
売上構成比の過去10年間における変化

- EP/アブレーションは売上高の半分を占める中核事業に成長
- 競争激化や価格下落による影響でインターベンションから撤退あわせて、人的資本もインターベンションから消化器へシフト
- 消化器と脳血管は成長事業と位置づけ、拡大開始

売上総利益(マージン)の傾向

全社マージンは短～中期では仕入品の戦略の影響を受ける。一方、自社製品売上に連動する症例数は増加傾向にあるため、**長期のマージンのベーストレンドは上昇**。

売上総利益率と自社製品比率の推移(単位：%)



*1 MicroPortとの独占販売契約を終了し、2019年10月からBoston Scientific社製品に切り替え

仕入品の拡大

- ・ インターベンション事業の拡大
- ・ リズムデバイスの拡大

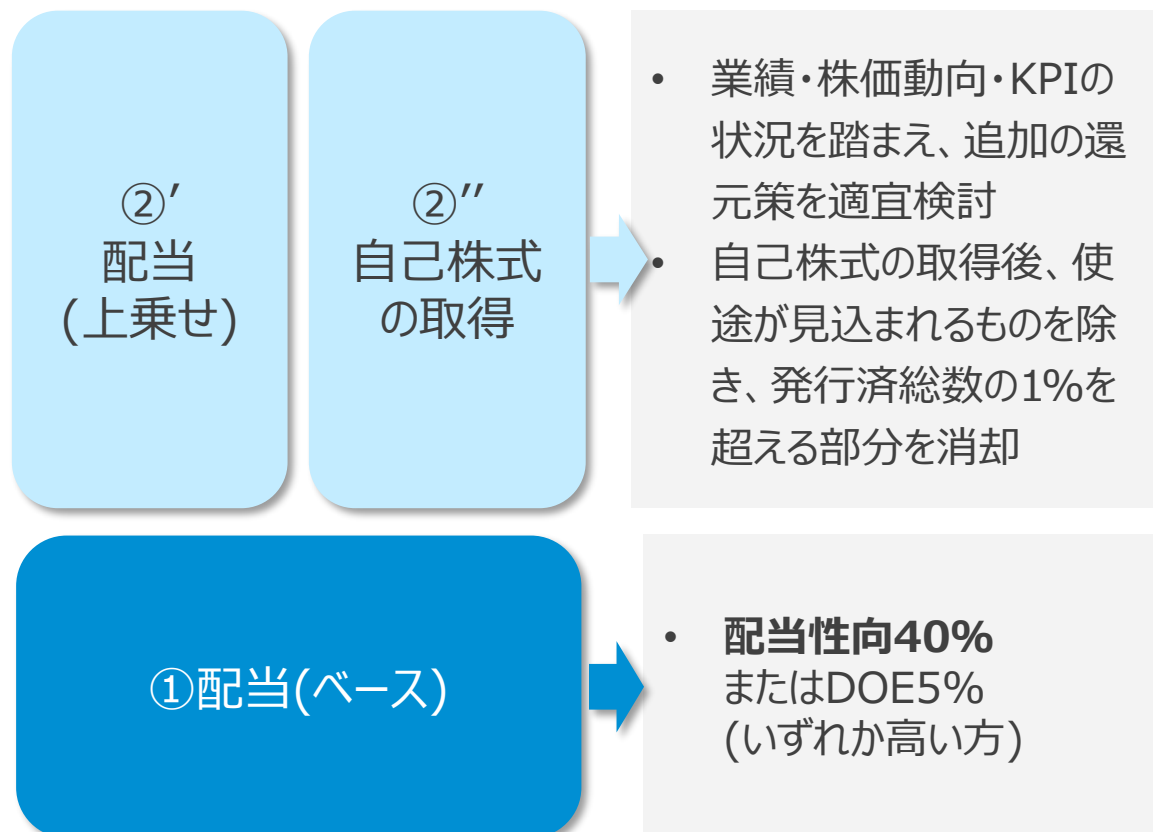
不採算事業(仕入品)の整理等

- ・ インターベンション事業の縮小
- ・ RFニードル(仕入品)の独占販売終了

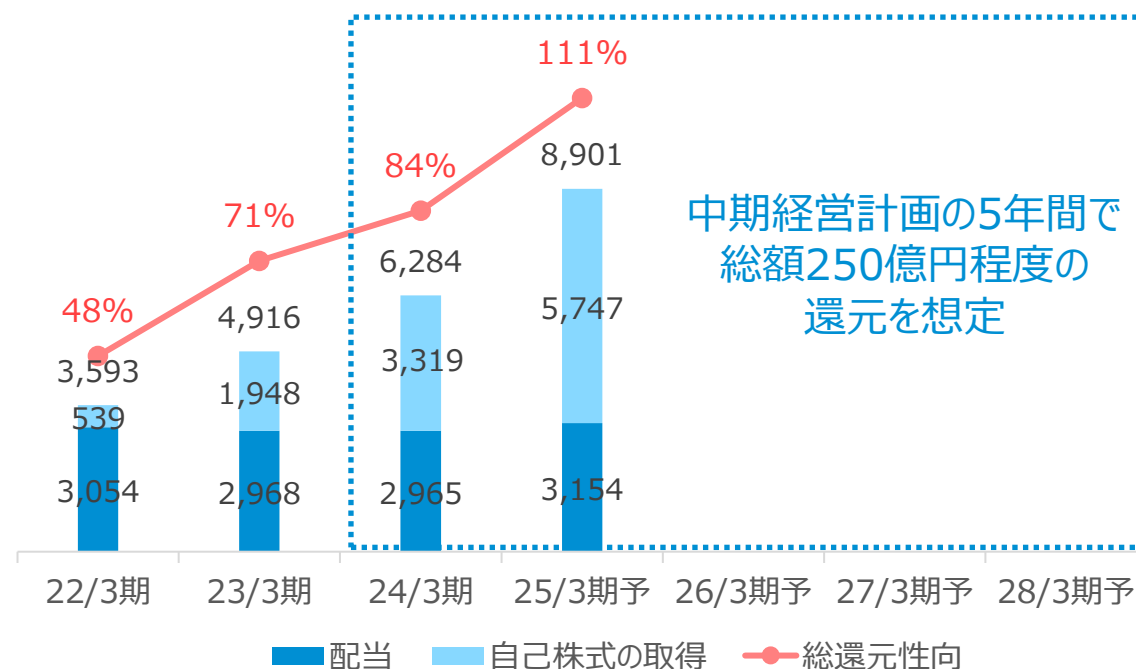
ベーストレンド：症例数増加⇒自社品増加⇒マージン上昇

中期では株主還元を大幅に強化へ。ベースとなる配当は配当性向40%。
さらに、配当の上乗せや自己株式の取得オプションを適宜検討

◆株主還元の基本方針



株主還元の実績(単位：百万円)



参考) 配当実績	22/3期	23/3期	24/3期	25/3期予
EPS(円)	93.13	88.22	98.73	113.58
1株当たり配当(円)	38.00	38.00	42.00	46.00
配当性向(%)	40.8	43.1	42.5	40.5

商 号	日本ライフライン株式会社
代 表 者	代表取締役社長 鈴木啓介
本 社	東京都品川区東品川2-2-20 天王洲オーシャンスクエア
設 立	1981年2月6日
上 場 市 場	東京証券取引所 プライム市場
証 券 コ ー ド	7575
事 業 内 容	医療用機器の製造、販売、輸出および輸入販売
資 本 金	2,115百万円
決 算 期	3月31日
従 業 員 数	連結1,216名/単体972名(2024年9月30日 現在)
事 業 所	営業拠点48ヶ所、羽田ロジスティックスセンター、関西ロジスティックスセンター、 研究開発統括部、戸田ファクトリー、小山ファクトリー、市原ファクトリー、 天王洲ACCADEMIA(研修センター)(2024年9月30日 現在)
連 結 子 会 社	JLL MALAYSIA SDN. BHD.

ご注意事項

本資料に記載されている内容の中で、歴史的事実ではないものは、当社の将来に対する予測です。特に、新商品や製品の導入、治験、薬事承認、そして発売時期については、過去の経験や利用可能な情報に基づいて当社が予測しています。しかし、様々な要因により、実際の業績は本資料で述べられている見通しと異なる可能性があります。そのため、これらの見通しに過度に依存しないでください。また、本資料には未承認の製品に関する情報が含まれている場合があります。

本資料に関するお問い合わせ先

日本ライフライン株式会社
経営企画部

TEL:03-6711-5214

E-Mail:ir@jll.co.jp

URL:<https://www.jll.co.jp>